
第2回 日野町議会定例会会議録 (第3日)

令和5年3月15日 (水曜日)

議事日程

令和5年3月15日 午前10時開議

日程第1 一般質問

通告順番1 6番 松本 利秋 議員
通告順番2 7番 安達 幸博 議員
通告順番3 2番 梅林 敏彦 議員
通告順番4 8番 佐々木 求 議員
通告順番5 1番 中山 法貴 議員

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

通告順番1 6番 松本 利秋 議員
通告順番2 7番 安達 幸博 議員
通告順番3 2番 梅林 敏彦 議員
通告順番4 8番 佐々木 求 議員
通告順番5 1番 中山 法貴 議員

出席議員 (10名)

1番 中山 法 貴	2番 梅 林 敏 彦
3番 金 川 守 仁	4番 松 尾 信 孝
5番 中 原 信 男	6番 松 本 利 秋
7番 安 達 幸 博	8番 佐々木 求
9番 竹 永 明 文	10番 小 谷 博 徳

欠席議員 (なし)

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 ————— 飛 田 朋 伸 書記 ————— 吉 原 尚 志
書記 ————— 三 好 達 也

説明のため出席した者の職氏名

町長 ————— 塚 田 淳 一 副町長 ————— 音 田 守
教育長 ————— 生 田 求 総務課長 ————— 景 山 政 之
住民課長兼会計管理者 — 荒 木 憲 男 企画政策課長 ————— 神 崎 猛
健康福祉課長 ————— 住 田 秀 樹 産業振興課長 ————— 五 百 川 和 久
建設水道課長 ————— 音 田 雄 一 郎 教育課長 ————— 遠 藤 律 子

午前10時00分開議

○議長（小谷 博徳君） おはようございます。

ただいまの出席議員数は10人であり、定足数に達していますので、これより令和5年第2回日野町議会定例会3日目を開会いたします。

今まで新型コロナウイルス感染症対策として、議場でのマスク着用を義務づけておりましたが、国の規制が一昨日から緩和されたため、日野町議会もそれに準じて、発言の際に限り、マスク着用は個々の議員判断といたしておりますので、御承知おきください。

出席議員にはタブレット端末機の使用を例規確認のため許可をしております。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしました日程のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（小谷 博徳君） 日程第1、一般質問を行います。

本定例会におきましては、5名の議員から一般質問の通告を受けております。

通告順に発言を許します。

最初に、6番、松本利秋議員の一般質問を許します。

6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） それでは、一般質問に入らせていただきます。

1点目、町長、2期目の抱負についてでございます。埴田町政、2期目は昨年でしたが、2月の選挙で、町長の思いの入った当初予算編成は不可能でした。今回、令和5年度当初予算編成が実質的な2期目のスタートになると私は思います。そこで、質問です。今年度2期目にかかる抱負をお伺いします。具体的に何がやりたいのか、お聞かせください。

次に、2つ目でございますけれども、教育と町の活性化についてでございます。何事もスタートが大切です。町政推進で、今年度は最大の船出になろうと思います。教育では、義務教育学校の開校、町の活性化、まちづくりでは、廃校となる日野中学校と黒坂小学校の利活用です。放っておくと、町、地域の衰退につながります。そこで、質問いたします、1つ、学校は建物ではなく、中身です。特に、特色ある教育等、どのような学校経営を考えておられるでしょうか。2つ目、町民の情操豊かな人づくりは文化、芸術に触れることが大切です。また、これを活用し、日野町来客者を町内に呼び込み、町の活性化につなげることもできます。黒坂小学校6年生議会でも廃校の利活用の提案もありましたが、どのように考え、推進されようとしておられるか、伺いいたします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 6番、松本議員さんの御質問にお答えいたします。

まず、今年度にかかる抱負、具体的に何がやりたいかとお尋ねでございます。町政を担わせていただいて6年目を迎えますが、過去5年間を振り返りますと、大まかには、最初の2年は豪雨災害などが発生し、町内の防災・減災整備の必要を痛感し、取組を進めたところでございます。そして、最近の3年は、新型コロナウイルス感染症の発生拡大、さらにはロシアのウクライナ侵攻、円安などによる影響下での住民生活支援、地域経済対策に注力してまいりました。また、高齢化、人口減少の傾向が続く中で、日々の生活に直結する公共交通の確保、買物支援など、基礎的なサービス提供の確保、継続にも力を注いだところでございます。その基本的精神は持続的なまちづくりであり、今年度にかかる抱負、具体的な取組につきましては、本定例会冒頭の約1万1,000文字、30分の施政方針で披瀝させていただいたところでございます。何がやりたいのかにつきましても、いろいろと申し述べさせていただいており、それを改めて全てまた列挙すると、また時間がかかりますので、その中での新規性のあるものをお示ししたいと考えております。

1つには、デジタル化取組の推進であります。便利で早く、利用しやすい行政を目指すとともに、デジタルディバイド、情報格差対策として高齢者向けスマートフォン購入補助、スマートフ

オン利用のプッシュ型通知アプリやフレイルチェックシステム導入など、便利で安全で安心な生活が送れる体制構築を進めること。

2つには、集落機能の礎である話合いの場づくりや地域の仕組みづくりをさらに促進していくため、集落支援員、地域づくり事業推進員、地域活動交付金を組み合わせた集落創生の取組をさらに強力に推進していくなどがございます。

また、3つには、学校跡地の利活用についても大きなテーマでございます。まず、日野中学校については、小さいお子さんが遊べる施設にしてはどうかと考えているところでございます。一方の黒坂小学校は、急速に高齢化が進む地域にあつて、地域振興に実績のある団体や企業、学校の力も借りながら、地域の問題を研究する施設を設置、また、地域の拠点や憩いの場となるよう、整備を検討してまいります。これらは全て、第2次きり日野町総合戦略を着実に進めていくための具体的な施策として取り組んでまいりたいと考えております。

次に、特色ある教育など、どのような学校経営を考えているかとお尋ねでございます。これにつきましては、後ほど教育長から答弁させますので、次の質問事項に対して先にお答えしたいと思います。

文化、芸術に関連した廃校の活用についてのお尋ねでございます。学校の跡地につきましては、検討委員会から示された報告書、それから、何回か住民説明会などを行っているところでございます。そういった中での意見も踏まえ、今回検討を進めてまいりました。いただいた意見全てというわけにはいきませんので、優先順位をつけ、事業を進めていきたいと思っております。

まず、日野中学校は小さいお子さんの遊べる施設にするよう計画中でございます。一方の黒坂小学校につきましては、大学や企業、地元住民と地域の今後について考える研究施設にということで、調整中でございます。町の歴史、文化を物語る文化財、美術関係資料を活用し、豊かな心を育むこと、さらには、町外の方にも日野町を訪れ、多様な価値を知っていただくことは、とても大切なことであると考えます。しかしながら、現在は検討委員会からの報告書を基に検討を進めており、文化、芸術関係品を展示・保管するということにつきましては検討しておりません。

私のほうからは以上です。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 改めて、特色ある教育と、どのような学校経営を考えているかとお尋ねに対してお答えいたします。

学校経営とは、学校が独自に設定した学校教育目標の達成に向けて教育課程を編成し、展開する中で、人的、物的、経営資源を活用し、有効な手段で学校経営を行い、目指す学校の具現化を

図ることであり、その主たる経営者は学校の校長でございます。よって、日野学園の学校経営については、今後、学校長がその方針をつくり、運営していくこととなります。

日野学園には、現在、日野中学校区を設定されている学校運営協議会を引き続き設置することとしています。校長は、この学校運営協議会に学校運営の基本方針を図り、承認してもらう必要がありますが、新年度になってから行うのでは4月1日からの学校経営に支障が出ますので、このたびはあらかじめ前年度のうちに仮承認していただくという手法を取っており、現在の小・中学校の校長が考えた学校運営の基本方針を1月に開催された学校運営協議会において、仮承認いただいております。それによりますと、日野学園では、校訓として、向学、友愛、誠実、自主を上げ、令和4年度まで長い間継承されてきた黒坂小学校、根雨小学校及び日野中学校の伝統を引き継ぎつつ、急激に変化する時代の中で、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会のづくり手となることができる児童生徒を、義務教育9年間の一貫した教育活動により、育成するとされています。また、その教育活動は、日野町教育大綱及び日野町教育振興基本計画に基づき、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を基盤として、保護者、地域との連携、協働の下で行っていくとされているところでございます。特色ある教育としては、独自教科、はばたき科を設定し、日野町の歴史、自然、文化、産業や地域の人々と関わる探求的な学びを通して、日野町に愛着を持ち、よりよい町の未来について考え、主体的に自己実現を図るために必要な力を養うことを目指す教育を進めていく計画がでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） そうしますと、再度お伺いしたいと思いますけれども、情報化社会に対応したデジタル化の取組、それから、高齢化・過疎化が進む本町の取組、集落機能の創生、そして、廃校となる学校の利活用ということで、現状を踏まえての町長の取組、そして予算編成は評価いたしたいと思いますけれども、それで、そのうちの集落機能の維持について、詳しくお聞きしたいと思いますけれども、まず、4年度、菅福地区でモデルとして専従の支援員を配置されまして取り組んでおられますが、今後、町内5か所ぐらい、9村ぐらいでしょうか、で展開したいと、町長は以前、考えを述べられました。どうなっていますでしょうか。この予算はこれに基づいたものか、今後の計画予定とやる気を伺いたいと、まず思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 6番議員さんの御質問にお答えしたいと思います。今年度、新規性のあるもの、さらには拡充していくものとしての一つとして、集落機能の仕組みづくり、さらに促進

していきたいということで、先ほども申し上げました。集落支援員さん、現在、菅福、高宮の郷、そういったところで今活躍していただいております。そういった活躍をさらに広げていくっていうことが必要だと思います。私どもとしましては、集落支援員さんの活動をそれ以外の地域にもつなげていく、広げていくってようなことをさせていただきたいと思います。具体的な予算の関係、令和5年度の予算の関係につきましては、担当課長のほうから補足させます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 松本議員の御質問に対して若干補足をさせていただきます。来年度、予算をつけているもの、集落の暮らしのサポーターについての予算がたしかついていたと思います。この集落暮らしのサポーターの役割なんですけれども、住み慣れた地域で誰もが安心、安全に暮らしていける、それから、お困り事、集落で抱えている問題をコーディネートするために身近な自治会ごとに配置をしていくと、自治会の承認というか、推薦があった方を配置していくといったものでございます。それで、健康づくりであるとか、生きがいづくり、自治会長、毎年替わられますんで、持続的にサポートとするようなことが具体的な役割でございます。それから、支え愛マップであるとか、防災とか、そういったもの、集落にいてサポートしていただくというようなところなんです。小さな拠点というのはあくまで仕組みでございまして、まずはこういった形で個々の集落にサポーターを置かせていただいて、それぞれの自治体で話し合いをする、暮らしの支援サポーター、必要に応じて設置をさせていただくと。それぞれの集落で問題解決にまずは取り組んでいただきまして、それでも解決できないというような場合は、さらに近隣の自治会と連携をされて、協働して問題を解決するための小さな拠点を設置していくと、そういったプロセスでもって、全町にこの取組を広げていきたいというふうに考えております。高宮の郷もそういうプロセスで現在の姿があるといったところでございます。

説明は以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 先ほど申しました、意味は分かりましたけれども、いつ、どこに、どのようにやられるか、教えていただきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） いつ、どこで、どのようにというお尋ねでございます。これは自治会のほうから推薦いただいて置くというようなふうな制度にしております。ですんで、自治会のほうから推薦をいただかないといけないわけでございます。

集落のサポーターについての件でございますけれども、今、私ども、今年度から地域振興監を

置きまして、毎週のように各集落へ出かけさせていただいて話を進めております。なかなか、いつ、どこでといったようなお約束はできかねますけれども、しっかり話をさせていただいた上で、地域のコンセンサス、同意を得た上で、迅速に、早急に進めていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 暮らしのサポーターについては地域のあれですが、大きな問題としまして、黒坂地域住民は、皆さんは、学校がなくなり、子供の声が、少数24名、先生合わせりゃ四、五十人だと思いますけれども、声がしなくなれば、急に寂しくなり、元気がなくなってしまうと私は想像するわけでございます。そこで、昨年3月に提出された検討委員会の報告書にもございますが、地域住民が集まる場所の整備、菅福地区の次は、黒坂に専従の集落支援員を配置し、地域コミュニティーの充実を図ることが私は急務ではないかというように思うわけですが、ところで、予算に上げておられます、いろいろと研究されるも結構でございます、また、年に2回ほどイベントも開催されるようでございますけれども、これも大切でございますけれども、4月からでも常時活用して、集落機能を維持することだと私は思いますけれども、町長のお考えはどうでしょうか。伺います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 先ほど担当課長のほうも申し上げましたけれども、どういうんですかね、それぞれの集落、元気を出していただきたいということでいろんな補助金を組ませていただいている、補助金というか交付金を組ませていただいている、そういった中で、単一の集落だけではなくて、周りの集落と一緒に課題解決をしていきたい、また振興していきたい、にぎわいづくりをしていきたい、そういうような機運の醸成をまず図っていかないといけないと思っております。私的な言葉で言えば、人を置いたから何かすぐできるっていうもんじゃなくって、やはりどういうふうな課題を見つけて、それを一緒に解決していくっていうか、そういった役割がその集落支援員さんに大いにあると思いますので、どういうんですか、性急にそういうんじゃなくって、やはり地域でいろいろお話をさせていただいて、こういうことがいいんじゃないか、こういうふうにしていくのがいいんじゃないかっていうような機運をまず醸成していかないといけないんじゃないかなと思います。本問のほうでも申し上げましたけども、今、高宮の郷で集落支援員さん、いろいろ活躍していただいている、ちょっとそういう状況、実態を我々としても、広報っていうですか、町民の皆さんにもお伝えしていくっていうことも大切かなって思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 町長、黒坂地区につきましては、もう小学校の統合っていうことも分かっておりましたし、1年も前から分かったことですし、検討委員会でもそういう集落支援員を置いて活動をというのも出ておりましたし、今からそういうようなあれでは生ぬるいと思います。学校がなくなれば、先ほども言いましたように、ほんに私は寂しくなるし、疲弊をするのではないかって、ここで休憩しておっては一層悪くなりますし、続けてやっぱし元気を出してコミュニティーの充実を図らにやいけんじゃないかと思えますけれども、もう少しスピード感を持ってまちづくりをやっていたきたいということで、計画にはありましたけれども、具体的には、それなら、5年度はここでこういうようにやるという、それを聞かせてもらいたいわけですので、

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 黒坂小学校の利活用についてということだと思いますので、それについて若干説明させていただきます。

○議長（小谷 博徳君） 4月からでもやらにや、遅いじゃないか。

○企画政策課長（神崎 猛君） 休憩しているわけでは必ずしもなくて、報告書のほうには世代間の交流の場と拠点施設というようなことも書いてございましたし、集落支援員の配置というようなこともあったわけでございます。当時、当初は役場と住民でというようなことをイメージしておりましたけれども、なかなかそれでは進めること難しいであろうというようなことで町長もお答えしたとおり、先日、施政方針等でも全員協議会のほうでも御説明したとおり、他団体、企業であるとか、学校であるとか、そういったところの力も借りながら、一緒に勉強していこうというスタンスでございます。その中でいろんな地域、町全体をそういった研究のフィールドとして提供するというようなことを考えておまして、そういったものを御披露するというような、一緒に勉強するというような機会も設けていきたいというふうに考えております。1回や2回というふうなこと言われましたけれども、地域のよりどころにしたいという気持ちはございますので、1回や2回でとどまらないように、予算も伴うものですが、予算かからないっていうようなこともできるかと思えますので、なるべく集まっていたく、地域の拠点だというような意識づけをしていく必要もあろうかと思えますので、そういった形で頑張っていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） あれにありましたけれども、検討委員会でも、やはり、集まるところを即、設けていただいて、やっていかないけんじゃないかと思えますけれども、よろしく、

スピード感を持ってやっていただきたいというふうに思います。これは今年の4月から始まるものではございません。もう分かったことですし、当然、4年度でこれは研究されて、実施に向けて私はやられるもんだなって思っておりました。とにかく早く取り組んでいただきたいと思うわけでございます。

なら、次に、移りたいと思いますけれども、新しくできます日野学園の特色ある教育ということで、はばたき科を設置ということでございますけれども、この教育はどういうものか、聞かせていただきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 先ほど学校経営の方針の中でも少しお話しましたが、独自の教科はばたき科、目標については、日野町の歴史、自然、文化、産業や地域の人々と関わる探求的な学びを通して日野町に愛着を持ち、よりよい日野町の未来について考え、主体的に自己実現を図るために必要な力を養うということを目指しております。

もうちょっと具体的にお話をしますと、例えば1年生でしたら、日野町の四季と自然について探求活動を進めてまいります。2年生は、日野町で働く人々に視点を当てて学習をしていきます。3年生でしたら、日野町の自然として、日野川を中心とした自然について探求活動を広げてまいります。4年生でしたら、人に優しい町にということで、人権福祉について学習をしていきます。5年生は食について考えようということで、農林業あるいは食育について学習を進めます。6年生は、大切なこと、大切なものとして、平和、人権、そして鳥取県、自分たちの住んでいる鳥取県に視点を当てて学習を進めます。7年生から8年生、9年生については、町の未来、そして自分の未来について探求活動を進めるということで、7年生においては、「広げる」として、日野町の歴史について学習をします。8年生は「深める」として、仕事や人に視点を当てて学習を進めます。9年生は「羽ばたく」として、自分の、あるいは町の未来について探求をしていく活動を計画しております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） ぜひ、聞いておっても頼もしくもありますし、立派だなというように思うわけでございます。

特色ある教育を進めておられる、教育関係の方は御存じだと思いますけれども、学力日本一の秋田県東成瀬村でございますけれども、日野町より人口が200人ほど少ない2,700人程度の村でございますけれども、小さいときから一貫して取り組まれて、成果で学力日本一になったと思いますけれども、それは先生の教育に対する熱意、それから、児童生徒、保護者、地域が一

体となって子どもを見守り育てていかれる様子ということでございまして、まず、先ほども教育長がおっしゃいましたけれども、学校の先生、それから児童生徒、保護者、地域が一体となって取り組まなければいけないと思いますけれども。そこで、スタートはやはり、先ほどの東成瀬村の場合を調べてみますと、スタートは先生の教育に対する熱意からであったように聞いております、調べたところ。義務教育学校日野学園の開校、スタートに当たって、教育長さんの決意を伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（小谷 博徳君） 何の決意だかな。

○議員（6番 松本 利秋君） 開校に当たっての教育に対する、学校教育に対する。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 日野学園の開校に当たり、教育に対する熱意と、思いということですが、私の中にも、こんな日野学園にしていきたいというような思いはありますので、それをお話しさせていただいたらと思います。先ほどの学校経営の方針の中にもあったので、少し重なる部分もあろうかと思いますが、先ほど松本議員のお話にもありましたが、学校だけでなく、やはり保護者、地域との連携、協働をこれまで以上に図っていきながら、地域とともにある学校をつくらせていきたいと思っております。黒坂小学校、根雨小学校、日野中学校、3校のこれまでつくり上げてこられた素晴らしい伝統がありますので、それを引き継いでいくのはもちろんですが、子供たちというのは地域の宝であります。学習の場、あるいは活動の場、発表の場を、町内広くそういった場を設けながら、あるいは地域の方々にもたくさん日野学園に来ていただいて、子供たちの学習の様子を見ていただいたり、子供たちの学習に支援していただいたりと、そういったことをしながら、日野学園が、あるいは日野学園の子供たちが、根雨地区だけでなく、黒坂地区やさらには菅福地区の元気の源となっていくような、そんな学校をつくらせていきたいと思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） スタートが肝腎ですので、その熱意でよろしくお願ひしたいと思ひます。

そうしますと、次に、2番目に移りたいと思ひますけれども、黒坂小学校廃校の利活用について、別の角度から伺ひたいと思ひますけれども、先ほど町長は、利活用の関係で、町の歴史・文化を物語る文化財、美術関係資料を活用し、豊かな心を育むこと、さらには、町外の方にも日野町を訪れ、多様な価値を知っていただくことはとても大切なことであると、町長、今、先ほど申されましたけれども、結論として、検討しておりませんということをお最後に言われました。これ

はどういうことでしょうか。私は、9月議会、12月議会でもこのことを申し上げました。まずは、議題に上げられるか、上げられないか、検討の、どうでしょうか、それをまず伺いたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 6番議員さんの御質問にお答えしたいと思います。本問のほうで、町民の情操豊かな人づくりには文化、芸術に触れることが大切だすってというような観点からの御質問だったと思います。そういったことを踏まえますと、確かに文化財、美術関係資料を活用し、豊かな心を育むこと、さらには日野町を訪れ、多様な価値を知っていただくことはとても大切なことであるっていうふうに思いを述べたところがございます。具体のものとして、黒坂小学校とか、廃校ですね、そういったところにそういったものをついていうことにつきましては、報告書にもそういう記載もございませんし、今現在、そういったことは検討しておりませんということで申し述べたところがございます。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） それは分かりますけれども、検討は今後されませんか、されますか、そこをとにかくまず聞かせてくださいませ。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） この関連の質問はたしか12月議会、さらにはもう少し前の議会でも恐らくあったと思います。どういうんですかね、常設の展示とか、そういうようなことは考えておりません。ただ、企画とかそういうような、イベントとかそういうようなことでやったほうがいよねとか、できるなっていうようなことはひょっとしたらあるのかなとは思っています。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 何だか私にはちょっとよく理解がし難いですがけれども。町長の出身校、関係者、黒坂小学校でございますけれども、調べてみましたら、すごい方が出ておられますですね。まず、古い順番に申し上げますと、頭本元貞さん、卒業しておられますが、英字新聞の創刊者でございますし、伊藤博文首相の秘書官、国会議員もされておりますし、国際的に活躍された方でございます。それから、渡辺紳一郎さん、黒坂小学校に1年から3年まで在籍しとられますが、昔、ラジオのクイズ番組の「話の泉」、テレビでは「私の秘密」で面白く私は思い出されますけれども、それから、黒坂中学校の校歌の作詞者でもございます、そういう渡辺紳一郎さん。それから田淵行男さん、これは黒坂小学校在籍が2年から5年あったようでございますけれども、山岳写真家の草分けでございます。高山チョウの研究家でもございます。これは少年時代、

黒坂で自然豊かな山野や川で、遊びの中で昆虫に触れられたのが原点ではないかというように思うわけでございます。やはりこの方は黒坂が原点になっておると思います。それから、上村さんであるとか、弟の松浦さん、これは香川県の坂出市長さんを5期20年やられた、坂出市民名誉市民にも選ばれておられる方でございますし、それから、黒坂小学校は直接関係はございませんが、黒坂の光徳寺さんの関係で、小早川秋聲さん、弟の小早川好古さん、こういう方も、これは画家でございますが、日本を代表する画家として知られております。

日野町出身では、このほかにたくさんございますけれども、時間の関係で申し上げられませんが、私は、偉大な皆さんを顕彰することによって、教材の、先ほどの学校教育もですが、キャリア教育にもつながると思います。それから、また、町長もおっしゃいました、町なかに人を呼び込むこともできる、町の活性化につなげることもできるではないかというように思うわけでございますけれども、再度、町長さん、こういう方もおられますし、やはり、常時ということにはならないと思います。

それで、先ほども町長は常時ということは難しいじゃないかと言われましたが、私は八頭町の廃校活用で、全校舎を活用してのあーとふる八頭のようにとは申しませんが、幾つかの教室で展示は、町有のパネルもございませう。最小限でやろうと思えば、金はかからずにできることで、もっと言えば、黒坂小学校6年生の子ども議会でも出ておりました電車の展示もよいと思います。これらを展示することで、県外から多くの撮り鉄さんも日野町に来ておられます。当然、そういう方は見にも来ていただけたらと思いますし、町内のよさも知っていただける。となると、町の活性化にもつながると思うのですけれども、どうでしょうか、町長。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） たくさん、今教えていただきました。頭本元貞さん、それから渡辺紳一郎さん、田淵行男さん、上村さんであったり、松浦さんであったり、小早川秋聲さん、いろんな、どういうんですか、その道の専門家、それから芸術家、いろんな方が輩出されてる、そういった歴史、文化がある、そういったものを、どういうんですか、一か所に固めなさいっていうようなお話のようにも聞こえたんですけども、私、どういうんですか、町なかに人を呼び込むためには、いろんなゆかりのところに行くっていうようなやり方も私は一つのいいアイデアだと思っております。小早川さんの、どういうんですか、作品をそのゆかりのお寺に行って見るっていうのもまたいいと思いますし、今、田淵さんのいろいろなものにつきましては、公民館に行けば随分見られると、そういったようなことになっております。どういうんですかね、結論としたら、一か所にまとめるとか、そういう美術品を一つの部屋に集めてっていうようなことは今は考えてお

りません。ただ、あーとふる八頭ですね、旧八頭町の安部小学校、これ、私、ぜひ一回行ってみて、どういうやり方なのかっていうのはちょっと勉強してみたいなっていうふうに思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 隣の例を取りましても、井上靖さんにしたって、松本清張さん、そういうようなもので、とにかく地元出身だからということでやっておられます。事実、日野町出身でございますし、やはりそういう日野町の出身の方がいろんな面で活躍されておりますし、先ほども言われましたように小早川秋聲さんの絵も公民館にございます。元はあるわけですので、それを活用すればと思うわけです。それから、先ほど言いました田淵行男さんね、写真も玄関にちゃんと飾ってあるわけですし、そういうのを活用して、やはり皆さんに教育、まずもって町民の方、それから、そうすれば、よそから来られた方も、ああ、行ってみようかなということで、町なかに入られれば、またそこから新しい活性化のあれもできると思います。そういうことでございまして、町長はそこに行けばいいと、言えば、先ほど言いましたのは、日野町から出られた方ですので、そこら辺がどうでしょうかね、町長、もう一度。

○議長（小谷 博徳君） もっと具体的に、出られた人なので、どういうふうにしていきたいというふうな。

○議員（6番 松本 利秋君） それを展示するとか、出して、資料は絵にしたって、写真にしたって、あるわけでございますので、それで、今は本物は日南町のほうで預かっていただいております。活用して、やはり、やればいいじゃないでしょうかね、芸術文化を高める上からも。なかったら、借りてこにゃいけませんけど、あるわけですので、物は。どうでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 随分、話が、どういうんですか、高度でなかなか理解できないんですけども、要はいろんな作品を一か所に集めなさいっていうような趣旨なのかなというふうに思えますけども、私は決して一か所に集めるのではなくて、むしろ臨場感がある、それぞれのところで見るとっていうのも、見たり観賞したりするっていうのも、これは一つのいいやり方じゃないかなっていうこととお話をしてるわけでございます。どういうんですか、例えば、学校教育とかでそういう人を知ってもらいたい、お話をして、さらに臨場感を持って、その場所に行ってみるとか、そういったことのほうが昔の偉人の方、さらにはその地域との関わり、バックヤードというか、背景も分かってくると思いますので、そういう趣旨でお話をしているところでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 町長は、小早川秋聲さん、好古さんのイメージで、寺に行ったらということで話されたかもしれませんが、田淵行男さんの写真にしては、安曇野に記念館があるわけですよ、当然、田淵さんも地元出身ですよ、日野町の。そういう面から、やはり日野町にもそういう美術品を、それは常時とするかは別としまして、やはり展示も必要じゃないかというふうに思うわけでございます。

時間が来ましたので、これ以上話すことはできませんけれども、ということで、とにかくもう少し検討を進めていただきたい、これも。どうでしょうか、最後に。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） いろいろ名前を上げられた皆さん方の足跡、そういったものを活用しなさいというお話だと思いますので、そういう観点は厳守っていうか、しっかり持ってまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員。

○議員（6番 松本 利秋君） 時間が来ましたので、これで終わります。ありがとうございました。

○議長（小谷 博徳君） 6番、松本利秋議員の一般質問が終わりました。

○議長（小谷 博徳君） 次に、7番、安達幸博議員の一般質問を許します。

7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） それでは、マイナンバーカード及びマイナポイントの活用について、お尋ねをしたいと思います。マイナポイントが付与されるマイナンバーカードの申請が2月28日までとあって、連日ニュースで申請待ちの行列が映し出されていきました。本町でも毎日のように住民課窓口で町民の方がお見えでありました。

さて、このマイナンバーカードがどのように活用されるのか、分からない点が多々あります。マイナンバーカードの取得はマイナポイントが付与されるからではないと思いますが、異常とも取れる光景でありました。国は町村単位で取得率を競わせ、国民はポイントを付与され、三拝九拝する。果たしてポイントは付与されるのでしょうか。こんな疑問が生まれたので、自治体として今後のマイナンバーカードの活用とポイントの取得や使い方について質問したいと思います。

1つ、マイナンバーカードの活用とマイナポイントの付与についてお聞きします。2つ目、スマートフォンはマイナンバーカードの取得、活用並びにポイントに関わるキャッシュレス決済サー

ビスには欠かせません。必要性の認識とその普及についてお聞きします。3番目、自治体マイナポイントについて考えてみませんか。以上の事柄をお聞きしながら、マイナンバーカード並びにマイナポイントの活用を深めていきたいと思えます。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 7番、安達議員さんの御質問にお答えいたします。

まず初めに、マイナンバーカードの活用とマイナポイントの付与についてのお尋ねでございます。マイナンバーとは、平成25年5月31日に制定されました行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律により、日本に住民票を有する全ての人が持つ12桁の番号のことで、個人番号という正式名称がございます。その個人番号が通知された際、個人の申請によって交付される顔写真入りのカードがマイナンバーカードと呼ばれるもので、電子証明書などの機能が備えられております。マイナンバーカードの活用としましては、身分証明、さらには国税の電子申告であったり、納税システムであるe-Taxによる確定申告の電子申請、また、健康保険証としても使え、さらには今後、運転免許証との一体化が予定されております。町では本年4月1日よりコンビニエンスストアでの印鑑登録証明書、住民票、所得課税証明書の発行ができるよう準備を進めているところでございます。

続いて、マイナポイントでございます。マイナポイントは、令和5年2月末までのマイナンバーカードの交付申請によりカードを取得された方が令和5年5月末までに健康保険証の利用登録や公金受け取り口座を登録することで、最大2万円分のポイントが付与されるものでございます。マイナポイントを取得する一般的な方法としましては、御本人がスマートフォンなどを使って登録のある電子マネーやプリペイドカード、〇〇ペイなどのスマートフォン決済、クレジットカードなどにマイナポイント付与をするための申込みをしていただく方法がございます。また、スマートフォンなどをお持ちでない方や、スマートフォンなどをお持ちの方でもなかなか御自分でお申込みができない場合には、役場の窓口で申請のお手伝いをさせていただいております。

次に、スマートフォンの必要性の認識とその普及についてのお尋ねでございます。スマートフォンがなければ、または、持っていなければ、マイナンバーカードが取得できないということではございません。現在も町民の皆様には、役場窓口にお越しいただき、交付申請を受け付けているところでございます。しかし、時代は御承知のとおり、デジタル化がどんどん進んでおり、スマートフォンの所有や利用は、低年齢を含む若い方はもとより、幅広い年齢層での普及が進み、日常生活の中で便利な道具としてその必要性はとても高まっております。そのような中、町では、昨年秋に百歳体操の場などで65歳以上の方へのスマートフォンについてのアンケートを実施し、

約半分の方がスマートフォンをお持ちでないという結果が出たところでございます。今後のスマートフォンによる利活用の必要性及び情報の取得や情報格差を解消するためには、特にスマートフォンの所有率が低い65歳以上の高齢者の方がスマートフォンを購入し、お持ちいただけるよう、このたびの当初予算に購入への補助金を計上しております。内容といたしましては、新規にスマートフォンを購入する、または、いわゆるガラケーからの乗換えをされる方に機器本体、手数料、充電器など、購入に必要な費用に対し、最大2万円補助するものでございます。この機会にぜひ多くの方にお持ちいただきたいと思っております。

最後に、自治体マイナポイントの考えについてのお尋ねでございます。この自治体マイナポイントとは、自治体独自の施策にポイントを付与できるサービスでございますが、全国的にまだ活用が少ない状況にあるようでございます。現在、町民の約8割の方がマイナンバーカードの交付申請をされておりますので、今後はマイナポイントを活用して、町の施策に参加していただく動機づけにするには、一つの手法ではあると考えます。しかしながら、課題といたしまして、1点目は、マイナンバーカード取得促進のためという目的にあつては、マイナンバーカードを取得された方、取得されてない方との間の不公平感がある点でございます。まずは、できる限りの方に御理解をいただき、マイナンバーカードを持っていただくことが必要と考えております。

2点目は、キャッシュレス化促進という点にありましては、町内でポイントを使える店舗が少ない点が上げられます。商品券などと比べ、町内どこでも使えることではなく、一定の店舗に限られておりますので、使える店舗を増やしていく必要があります。

3点目は、ポイントを付与されても、スマートフォンをお持ちでなかったり、スマートフォンをお持ちでも使い方が分からなく、ポイントを使うことができない方がおられる点でございます。さらには、ポイントより商品券がよいと考える方も一定数はおられますので、ポイント、商品券、いずれも選択できるようにするにはどのような仕組みづくりをするのかなどの課題があります。全国的な流れを見ますと、キャッシュレス決済サービスの普及が急速に進んでおりますので、先ほど上げました課題を踏まえ、デジタル技術を活用した住民サービスに活用できないか、今後も検討してまいりたいと思っております。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） それでは、今の説明を分からない点等が、あるいは、もう少し細かく聞いてみたい点がありますので、続けてお聞きしたいと思います。

まず、このマイナンバーカードは、さきには、我々のところに郵送してきたものは、通知カードという紙ベースの番号が書いてあるものが来たわけでありまして。約8年ぐらい前に、そういっ

た、私のところには届いておりました。それが、この8年間の間にあまり急というのか、個人情報
の関係でかなり使用が限られるというのか、罰則等もあったもんですから、あまり普及は私は
してこなかったんじゃないかなと思ってますが、2年前から、今お配りしてもらっているマイナ
カードという電子的なものが出てきたときから、結構いろんなものに使えますよということで普
及してきたのではないかなと思っております。そこで、作成していない人がまだいらっしゃるわ
けですね。先ほど、8割ぐらいは持っておられるんじゃないかないうて、本町ではと言われまし
たが、後でも、正式に何%ぐらい持っていらっしゃる、あるいは申請されているのかをお聞きし
たいと思いますが、これ、まだまだ作成しない人には、引き続き、案内、作りませんかという案
内文書は来るんでしょうか。どこから来るのか、町から来るのか、国から来るのか分かりませ
んが、そういうものはまた来ますよね。それをお尋ねしたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 荒木住民課長。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） まだ作っておられない方の案内のことですけども、今
までも国のほうから幾度となく案内のほうに来て……。

○議長（小谷 博徳君） 案内の前に、何%ぐらい。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） まず、2月末の申請状況ですけども、本町で79.8%
の申請をいただいております。その後も増えておりますので、もう8割は超えている状況でござ
います。

作っておられない方には、今後も国のほうから行くと思われまます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） その人の今後の取扱い、未加入の人の。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） 未加入の方、今回、確定申告とか住民課窓口に来られ
た方、皆さん、お聞きしたり、お勧めしております。ただ、私は作らないと言われる方も多々お
られまして、私も強制はできませんので、そういう方にはちょっと仕方ないなとは思っている
状況もございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） いいですか。大丈夫。

7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 先ほど、マイナンバーカードは、作らない人は仕方がないという
ことであります。確かにそうだと、これは義務化ではないので、どうしても自分は、いろんな理
由があると思います。情報が、やっぱりキャッシュレスと同様にある程度漏れる可能性があつた
りします。そういう部分の心配でしませんという人もあるんですが、すなわち、3つのパターン
があるわけですね。このマイナンバーカードをこれから活用するに当たって、持たない人、それ

から、カードだけを持って人、カードもあるスマホも持っているという、この3つのパターンが出てくるわけです。この3つのパターンで、これからいろいろな使い方が違ってくるところを、これからちょっとお話をしてみたいと思います。

一番の機能は、先ほど言いましたように、このマイナンバーカードは、電子証明の機能があるというのが一番のポイントだろうと思います。そこで、その電子証明のを使って、先ほど説明がありましたが、4月1日からコンビニエンスストアでも、印鑑証明であるとか住民票とか取れるようになるというのは、このマイナンバーカードをどっかに差し込んで暗証番号を打てばいいということであろうと思いますが、これ、窓口に来れば、今までどおり申請書を書いてするのでしょうか。それとも、窓口でもそういう、このマイナンバーカードを提示するだけで、住民票とか印鑑証明等は取れるのでしょうか。お尋ねします。

○議長（小谷 博徳君） 荒木住民課長。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） 役場窓口、それから黒坂支所の窓口ということだと思います。窓口では、今までどおり申請書を書いて交付するようになります。といいますのが、コンビニエンスストアには、多機能複合機のマルチコピー機というの……。

○議員（5番 中原 信男君） 議長、時間が進んどるで。

○議長（小谷 博徳君） あっ、時間、ちょっと今、ここで休憩入れます。放送機器がちょっと都合が悪くなったようですので、ちょっと休憩入れます。

午前11時08分休憩

午前11時15分再開

○議長（小谷 博徳君） それでは、再開いたします。

荒木住民課長。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） 先ほどの役場庁舎での住民票等の発行についてでございます。役場庁舎、それから黒坂支所については、今までどおり、申請書を書いていただいで発行とさせていただきますと思います。コンビニにございますマルチコピー機というのがございまして、そちらのほうでマイナンバーカードで発行していただくようになるんですが、そちらの機器を導入ということは考えておりませんので、今までどおり、申請書を書いていただくということでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） マルチコピーがあるとかという問題ではなくて、町長、町長です

よ、町長、そういう問題ではなくて、こういうカードは、持っとならどこでもそういうことができますよっていうものがやっぱりないと、なかなか、今の話で、役場はそのまんま、もうペーパーレスでせずにアナログですっていう、言っとなるようなもんですからね。それは、やっぱり工夫というのか、装置とか認証するものが必ず必要だと思うのですが、そういうことをやっぱり考えていかないと、私はいつまでたっても庁舎内はアナログじゃないかなと思うんです。それは、なかなか器具の開発とか難しいかもしれませんが、こういうことはどんどん国に言ってほしいと思うんです。町長、いかがでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんの意見、もっともだと思います。このマイナンバーカードってということだけではなくて、行政のデジタルトランスフォーメーション、それから、地域のトランスフォーメーション、そういった中で、やはりどういうんですか、本当にデジタル化を進めていく、行政の手続もそういうふうに進めていかないといけないというふうに思っております。そういうのを進めさせていただく中で、国のいろんな支援、そういったものもしっかり活用させていただきたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） この通知は国のほうから来るというようなことでしたが、生まれてきた新生児に対しては、どのような、手続上で通知が来るのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 荒木住民課長。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） お生まれの方ですけども、役場のほうに出生届が出まして、役場のほうで住民登録しますと、国のほうに報告が上がります。それを国のほうがそちらのほうを受け付けまして、国からまたマイナンバーカードの通知が行くという流れになっております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） マイナンバーカードについては、流れ的には分かりました。また次の項目の中で詳しく聞きたいと思いますが、次に、マイナポイントが2万、健康保険証の利用登録、公金受け取り口座の登録等することで最大2万ポイントがつきますという、これ、2つの登録じゃ2万ポイントつかないと思います。もう一つ、いわゆる、ここが一番重要な今日の私のテーマになっておりますが、お買物での、いわゆる電子マネーとかプリペイドカードのひもづけというところをして5,000ポイントがつくんじゃないかなと思うんです。もう一度、詳しい、そこの説明をお願いできますか。

○議長（小谷 博徳君） 荒木住民課長。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） 議員おっしゃるとおりで、先ほどの健康保険証、それから公金口座の受け取り、7,500ポイントずつで1万5,000ポイントです。あと、それから、例えば電子マネーだったりプリペイドカード、それから、何々ペイのペイアプリですね、それから、クレジットカード、そちらのほうのお買物とかそちらのほうにチャージしていただくということで、残りの5,000ポイントが入るというシステムでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） すなわち、マイナンバーカードの普及を促進するという事は、こういったポイントをつけて消費喚起を促して、デジタル社会をこれから実現しましょうよというところだと思います。そういうことでポイントがついておるわけでありませう。

そこで、このポイントについてが今日のテーマに私はしておるんですが、先ほど言いました、3つのパターンがあると申しました。スマホとカードを持ってる方、カードだけの方、持たない人というふうに。今、2月28日で結構な人が申請をされたと思います。随時、今カードが届いて、役場の窓口でお渡しをして説明をされてると思います。そこで、このスマホを持っている方は、キャッシュレス決済等が、自分の〇〇ペイであるとか、いろんなひもづけは簡単にできます。ところが、カードだけの人は、どういった仕組みでそれができるっていうふうにカードを渡すときに説明をされておるのでしょうか。ここがポイントだと思います。カードを渡すときの説明等を教えてください。

○議長（小谷 博徳君） 荒木住民課長。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） スマホを持っておられない方への説明でございます。こちらについては、例えば、電子マネー、プリペイドカード、これはスーパーであったりコンビニ、それから、公共交通系、それから、近隣の町にありますプリペイドカード、それから、クレジットカードですね、お持ちのクレジットカードでもひもづけできて登録できますよと、役場のほうでもさせていただきますよということで説明させていただいております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） 今の説明聞いても、カードをその窓口でされるときに、意味が全く分からないだろうと思うんです。電子マネーがどこでどうなってるか。それで、まず、役場でスマホがなくてできるのは、公金の口座登録と、それから健康保険証のひもづけしますかっていうことは役場でできるんですね。そこをまず、その2つは役場でできるかどうかを確認しておきます。

○議長（小谷 博徳君） 荒木住民課長。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） 役場でできます。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） じゃあ、まず、役場で、そのことは、スマホがなくても、カードだけ受け取る人でも、いわゆる1万5,000ポイントは何らかの、ひもづけをした段階ですね、取りあえず、資格があるというのかな、登録しとればもらえるということですよ。問題は、それを使う、こういった電子マネーとか〇〇ペイにひもづけをするかというところもお聞きにならないと使えませんね。そこで、こういった方法をひもづけに、そのスマホを持っていらっしやらない方にするのかというのが問題になってくると思うんです。いわゆる、そういうものがない人は、全く2万ポイントが使えないわけでありますので、これは、えっ、使えないのなら急いでするじゃなかったとか、変な失望感というのか、期待外れというところが出てくると思うんです、住民の方に。それがないように、しっかりと今から説明をしておかないといけないと思うんです。こういった方法でそれを解消するかということではありますが、今、そういう方には、どんなチャージの仕方があるというふうに説明をされてるんでしょうか、あるいは、全然ないのでしょうか。そこをお聞きしたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 荒木住民課長。

○住民課長兼会計管理者（荒木 憲男君） 議員おっしゃるとおり、現金で2万円もらえるんじゃないかと思われてる方も多数おられます。案内ですけども、先ほどもちょっと説明させていただきましたが、スマホをお持ちでない方、プリペイドカード、電子マネーですね、スーパーであったり、コンビニであったり、公共交通機関だったり、それから、近隣の町のプリペイドカード、それからクレジットカード、そういうもので御案内しております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） ところが、その電子マネーとかそういうものを紹介されても、この日野町内でそういうものに対応しているお店が果たしてあるのかというところなんです。ですから、今、チャージができるカードというのは、米子にある大きなスーパーのそういったプリペイドカード的なものに入れるというのが普通になってくるわけです。そのカードは、町内でも使えないことはないけど、1件ぐらしか使えないというので、大変困るわけです。そのスマホもないっていうのは、結構高齢者に多いと思うんですが、そういう方が米子まで出てそういう手続を果たしてできるのかというところが、私は、町で、行政で解決をしていかなければいけない問題だろうと思うんです。

そこで、ほかに出かけてしないで、根雨でできることはないのかなと考えたときに、このできますというカードの中に、交通系のカードがあるんです。JR西日本が出してるICOCAっていうカード。これは根雨駅で買うことができます。それから、チャージもできます。普通は、JRですから、このカードは電車に乗って使ってくださいね、それで乗ったときにポイントをつけて買物にも使えますよという仕組みの中なんですけど、買物でも使えますよという登録をすれば、このたびのような2万ポイントの受皿になるカードでもあるわけです。それが根雨駅で買って、登録も、その根雨駅にある機械で、これはポイント、買物でポイント集めてもいいですよという登録もできるわけです。そういうカードが身近にもあるので、ぜひ、それが唯一、ばたばた、高齢者の方を含めて、しなくていい方法だと思うんですが、これ、JRの利用促進にもつながると思うんですが、こういうのをしっかりとPRしてほしいんですが、町長、どういうふうに感じられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） マイナポイントの関係での御質問というか、御提案だと思います。結論的にはすごくいいアイデアだなと思います。私もICOCA持ってますし、あと、コンビニ系のも持ってますけども、地元でチャージできるのは、まさに、このICOCAなんですよね。あとは地元でチャージできない。どういうんですか、ちょっと言い過ぎかもしれませんが、このマイナポイントっていうのは、まさに地域通貨のような形で、地域で使っていただくようなふうになってほしいなっていう中では、そういったカード系、チャージ系のキャッシュレスを進める上でも、やはりもっと地域で使えるようになっていかないといけない、そういったふうに考えております、感じております。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） ということで、これから説明されるときに、やっぱりICOCAも一つの方法だよということもしっかりとってあげてください。根雨駅利用促進のためにもなります。

そこで、課題の中にあるように、じゃあ、そのICOCAだったら日野町で何店舗ぐらい使えるのっていうところが今後の課題だと思うんですが、少なくとも、私の感覚では、イオンカードよりはICOCAカードならば五、六店舗、10店舗弱、今、町内でも使える店があるということだけは御紹介しておきたいと思います。

そこで、次に、このマイナンバー、今、ICOCAなり、あるいは、スマホで〇〇ペイなりで登録してポイントが集めるような仕組みができつつあります。そこで、まだまだ、このマイナン

バーカードを普及させるためにも、こういったポイントがしっかりつく仕組みを持ちながら、普及率を上げていかなければならないと思うんですが、もう8割あるんだけえ、いいわと思うなら、もう、それはそれまでの話ですが、ぜひとも、今97.何%ぐらいが全国で一番多い町村だそうです。そういうことからすれば、まだまだ町内で持ってもらうように促すには、ポイント制度っていうのは重要な一つだと思うんです。そこで、どういったものにつくのかというので、今、鳥取県は、鳥取県の自治体ポイントってあるのは御存じですか、町長。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） ちょっと詳しくは存じておりません。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） まだまだ使っていない、自治体ポイントが普及してないって先ほど言われましたが、唯一、鳥取県しか、県内、鳥取県ではない、町村ではしていないというところですが、似たようなのに、隣の町村でたったもカードっていうのを作って、ポイントを、これはつくっておりますけれども、自治体としてのいろんな、先ほど例に挙げてありました百歳体操でつくとか、そういうものはありませんでした。

それで、自治体ポイントでつけてほしいなと思うのは、例えば、百歳体操もあるんですが、国保の特例健康、何だったかいな、受診をしたとか、それから、赤ちゃんが、先ほど、すぐにでも交付、通知が来るということであれば、赤ちゃんのそういったお祝いとかにポイントをつけるとか、あるいは、栄養指導、これは姫路の例ですが、禁煙をした人とか、そういうものにもつけていくというようなポイントがあります。だから、自治体の政策をもっと促すときに、このポイント制度というのが自治体ポイントのいいところだと思うんですが、町長、いかがでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 議員さんおっしゃられるように、施策を広げていく、さらに施策に対応して住民の方が興味を持っていただくって、関心を持っていただくっていうのには、すごくいい取組だと思います。今、私の手元に、自治体マイナポイント事業っていうことで、これは令和4年の12月26日に総務省の自治行政局が出した資料がございます。そこに自治体マイナポイントについてって、類型っていうようなことがあって、小さな自治体では、いわゆる民間キャッシュレス決済サービスを利用するよりも、自治体独自キャッシュレス決済サービスのようなことを考えたほうがいいんじゃないかっていうような御提案というか、検討もございます。そういったものを勉強して、ちょっとどういう仕組みがいいのかっていうのも考えていきたいと思っています。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員。

○議員（7番 安達 幸博君） このポイントをきちんとひもづけするのは、5月31日までにしなければならぬわけでありませう。2月中に受けた人はですね。そうすると、やっぱり、いろいろなこういう制度もつくりませうよという、今後つくりませうよというものがないと、やはり、そこにひもづけが、まあいいわって思ったりもしますので、ぜひとも早くから検討してください、町長。今の話を、いわゆる自治体通貨となるものをいち早く検討してください。もう一度、その取組の姿勢を伺います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） DXの推進、キャッシュレス決済の推進、そういった観点も十分踏まえて検討、勉強してまいりたいと思います。

○議員（7番 安達 幸博君） 終わります。

○議長（小谷 博徳君） 7番、安達幸博議員の一般質問が終わりました。

○議長（小谷 博徳君） 以上で午前の一般質問を終了します。

午後は1時15分といたします。休憩。

午前11時38分休憩

午後 1時15分再開

○議長（小谷 博徳君） 再開をいたします。

午前に引き続き、一般質問を行います。

2番、梅林敏彦議員の一般質問を許します。

2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） それでは、質問させていただきます。

質問事項は、黒坂小学校の跡地活用についてであります。質問の趣旨ですが、日野学園の開校に伴って、この3月いっぱい黒坂小学校と日野中学校が閉校になります。特に、黒坂地区においては、これまでの日野産業高等学校の閉校、黒坂中学校の閉校に続く3度目の閉校で、地区には学校が一つもなくなってしまいます。町長は、このたびの施政方針において、小学校閉校によって地域の活力が失われることの危惧に触れられています。同様の危惧を抱く者として、そして、この危機に本気で対応すれば、逆に、黒坂活性化の起爆剤に転化することが可能である、そう信じる者として質問いたします。

質問の項目です。1つ、まず、黒坂地区で生まれ育ち、黒坂小学校と黒坂中学校の卒業生でも

ある町長に、現在の黒坂地区の状況をどのような思いで見られておられるか伺います。

2つ、町では、黒小と日野中の跡地利用を検討する住民による委員会を立ち上げ、その報告書が昨年4月に町に提出されていますが、これに対する回答はどうなっていますか。

3つ、黒小跡地活用については、今年度の当初予算にリノベーションL a bを開設するとあり、390万円ほどが計上されています。この内容と目的を御説明ください。

4つ、跡地を地域の拠点、すなわち、地域住民が進んで集まる場所にするには、住民自身が自分事として主体的に動いていく機運をつくり出すことが必要です。それについてのお考えを伺います。

5つ、日野町は、これまで学校を核とした地域づくりを標榜してきました。そこで伺います。全ての学校がなくなる黒坂地区においては、今後、この標榜を下ろしてしまうのか、それとも、どうか工夫して学校や子供を核とした地域づくりを続けていくのか、伺います。

6つ、跡地の生きた活用をするには、町外・県外からの力を借りることも必要です。教室はたくさんあるのですから、サテライトオフィスや個人事業所としての利用を呼びかけることを提案します。いかがですか。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 2番、梅林議員さんの御質問にお答えいたします。

まず初めに、黒坂地区の現状についてのお尋ねでございます。黒坂地区は、従来、連合自治会や自主防災での活動など、地域独自の活動が盛んな地域でございました。しかしながら、過疎・高齢化の進行とともに、地域の活力が失われつつあります。このたび、黒坂小学校を含む町内の小・中学校は長い歴史の幕を閉じ、新たに日野学園に生まれ変わります。黒坂地域の元気がさらに失われることを危惧しており、早急な対策を取っていく必要があります。

2点目に、委員会よりの報告書についてでございます。これは、日野町立学校跡地利用検討委員会より昨年3月に報告書が提出されたものでございます。報告書は今後の活用の検討の参考にするものとされており、お尋ねのように、どちらかに回答するといったものではございませんが、提出された後は、説明会などで、広く住民や関係団体の方のお話を聞きながら検討を進めているところでございます。

3点目の、当初予算の390万円についてでございます。これは、特に利活用に資するものではなく、建物の管理や電気代などの維持経費を計上しているところでございます。

4点目の、自分事として主体的な機運を盛り上げていくことについてでございます。黒坂小学校は、日野町リノベーションL a bと銘打って、日野町が抱える地域課題について、リノベーシ

ョンという手法で、L a b、これは実験室というような意味でございますが、研究機関、学校や企業が研究や学びの場、新たなチャレンジを実験、実践する場として活用をまず進めてまいります。日野町全体を研究フィールドとする取組でございますが、まずは、黒坂地区に関する課題から取り組んでいけたらと思っているところでございます。黒坂小学校の利活用についても、地域住民の方と一緒に研究してまいります。黒坂地区は、先ほどから申し上げておりますとおり、地域の活動は停滞しているところでございます。以前のコミュニティーのような活動は、すぐには難しいと思います。いきなり地域にかちっとした役割を担っていただくのではなく、まずは、各団体の研究テーマに参加していただき、そして、少しずつ参画しながら、多様な人と関わっていただけることを期待しております。現在、黒坂地区を何とか活性化したいという、地域の住民を中心にした新たな試みがスタートしているという話も聞いております。そことも手を携えてやっていきたいと思っております。

5点目の学校を核とした地域づくりについてでございます。先ほどから御説明しておりますように、日野町リノベーションL a bは、地域づくりの拠点として、緩やかに人と人がつながり、支え合う、地域のにぎわいの中心的拠点にする計画でございます。様々なものがなくなり、衰退が続く黒坂に常時人を呼んでくることは難しく、容易ではないことは理解しております。先ほど申しあげましたような、集える場、学びがあるよりどこを地域の方と一緒につくってまいりたいと思っております。

まず、来年度は、日野町リノベーションL a bの基幹事業としてイベントを実施する予定でございます。これは、昨年度の黒坂駅100周年事業のような地域住民と一緒に開催し、あわせて、講演会やワークショップを開催し、地域の今後について考えていく機会にしていきたいと思っております。

最後の6点目、サテライトオフィスや個人事業所としての利用についてのお尋ねでございます。これにつきましては、現在までもいろいろな企業や団体とお話をして御助言をいただいております。その中でお話しされるのは、場所がありますというだけでは駄目で、そこに入る理由、メリットがつかれるかといったところがポイントになるということでございます。企業が、誘致の理由、経済的メリット、例えば福祉やデジタルトランスフォーメーションなどをテーマとした研究があれば、ビジネスとつながっていくきっかけになる特徴づくりができていきます。そういった意味で研究テーマは重要であると考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ありがとうございます。

最初の質問に戻りますけれども、私としては、黒坂で生まれ育った方として、黒坂に対する思いということをお聞きしたかったんですね。言ってみれば、黒坂愛みたいなものを語っていただきかったんですが、何か町長さんとしての立場から、客観的な回答になってしまったんですけれども、改めて、思いということについて語っていただくことはできますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 黒坂で育った、そして、黒坂にあった小学校、そして中学校で学んだ、そういったものを黒坂に対する愛情表現というようなことでちょっと述べてみたらというお話でございます。本当に、どういうんですか、最初、町長選に立候補する一つの契機ってというのは、黒坂駅から、駅のホームから黒坂の町並みを見て、何て懐かしいんだろう、何ていいとこなんだろうっていうような思いから、思いが走ったものでございます。黒坂は、私の幼少時代、本当に隅々まで歩かせていただいたり、遊びの場でもありましたし、また、友人、それから、いろんな世代の方とお付き合いできた、そういった非常に懐かしい心のふるさと。そして、子供たち、孫たちにも引き続いて残してやりたいなという、そういうような土地でございます。非常に深い愛情を持っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ありがとうございます。そういう気持ちを基に、今日は質問を、議論を進めさせていただきたいと思います。

2つ目の質問です。報告書に対する回答はという質問だったんですけれども、これは参考にするものであって、回答するといったものではないという御返事でした。あっ、なるほどというふうに思います。と思いますが、この答申といいますか、報告書の中に、最後のまとめのほうでこういうふうにしてほしいというのが出ております。施設が、校舎の施設が住民団体等を中心に活用され、地域コミュニティーの核として機能することを期待するというふうに記されています。ここが一番大事なところだと思いますので、この文言を肝に銘じて事業を進めていただきたいと思います。

続いて、3点目になります。当初予算390万円の内容についてでございますけれども、これは、建物の管理や電気代などに当面使うものとして計上されているということなんですが、つまり、令和5年度当初予算においては、実質的な事業費というものはゼロというふうに理解をするんですが、それでよろしいかという御返事と、それと、今後の展開、現時点では事業費ゼロなんだけれども、今後の展開次第では、必要に応じて補正を組むという理解でよろしいのでしょうか。お答え願います。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 今年度の予算についてお答えをいたします。先ほど町長が説明をいたしましたとおり、こちらの学校跡地のほうで予算を組ませていただいているのは、大体、ガス、電気、水道代といったような予算を組ませていただいております。先ほども答弁の中にあつたかと思うんですけれども、来年度はこの施設を核とした基幹事業を計画しておりまして、これは黒坂小学校と日野中学校、2校分ということなんですけれども、たしか100万程度の予算は組ませていただけたんではないかというふうに思っております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 今おっしゃいました100万円程度というのは、日野中と黒坂小におけるイベント的なものに使われるというふうに私は理解しております。私が先ほど質問したのは、今年度中にであれ、今はゼロであっても、必要に応じて研究を進めていかれるわけです。住民もそこに参加するだろうと思います。その中で、必要に応じて出てきたものに関しては補正を組まれるという理解でよろしいですかという質問です。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 当初予算でお願いしてるのは340万と100万なんですけども、御質問にありました、いろんな取組、その取組の中でさらに必要なものっていうようなこと、さらには成果っていうんですか、成果としてこういうことを進めていきたい、本当に、午前中の議員さんの質問でもございましたけども、やはりスピード感っていうか、そういったことも非常に大切でありますし、柔軟な対応も必要だと思いますので、補正をお願いする場合もあろうかと思えます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） よろしく申し上げます。

4つ目の質問に移りますけれども、まず、日野町リノベーションLabの内容についてお聞きする前に、一番大事なことは、ここにもありますように、先ほどの回答にもありましたように、地域住民と一緒に研究していくということで、どれだけ住民の皆さんがここに参加して下さるかということが成功か否かの鍵になると思いますので、この地域住民と一緒にやっていくところを私たちとしても大事にしていきたいと思えます。

そこで、これまでは、予算審査特別委員会でも説明を受けておりますけれども、もう一度、この日野町リノベーションLabについて、具体的な説明をお願いいたします。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） リノベーションL a bについてお答えをいたします。日野町リノベーションL a bというような形で、地域を再生していくというような取組、今後計画をしております。リノベーションというのは、本来、既存の建物を、大規模な工事を行って、建物の性状を向上させたりですとか、付加価値をつけるというようなことをリノベーションといいます。大体、古民家の修復とか、そういったときによく使われる言葉なんですけれども、地域全体をリノベーションするということで、日野町全体の価値を高めていきたいというふうに考えております。

この活動を黒坂小学校跡地を拠点にしていきたいというふうに考えてるんですけれども、国の機関や団体、学校、企業に町を研究のフィールドとして提供いたしまして、テーマは、地域をよみがえらせる、地域の価値を高めるといったものなら特に限定はしておりませんが、そういったことを住民の方と一緒に研究を進めていきたい、その研究の、こちらのほうを拠点にするというような考えでおります。

それで、研究や勉強をするにしても、人の流れは必要というふうに考えております。ちょっと、若干偉そうな言い方になるんですけれども、啓蒙をするにしても、何か楽しそうであるとか面白そうといった場所に集まっていただくというようなことは必要であるというふうに考えております。

そこですとね、例えば、ちょっと実際にできるかどうかというのは今後の課題なんですけれども、よく言われるのは、喫茶とかカフェであるとか、くつろげるような場所の整備も必要であろうというふうには考えております。将来的には、そこまで大規模なものになるかもしれませんが、大規模なものにすることは難しいかもしれませんが、鳥取県東部のほうにございます隼L a b. であるとか、近隣でいえば、みぞくちテラスですとかキナルなんぶのような施設にしていけたらなというふうに考えております。最終的な成果としましては、人材を育成したりであるとか、それから、持続可能な地域にするっていうこと、それから、学校跡地自体のリノベーションを進めていくというようなふうに考えております。取りあえず、来年度は黒坂小学校を中心としたイベント、それから、研究機関、いろいろ成果も出ると思いますので、こういったところのワークショップや講演会、勉強会といったものを同時に開催して、きっかけづくり、それから、黒坂小学校が今後地域の拠点になっていくんだというような意識づくりに努めてまいりたいというふうに考えております。

説明は以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ありがとうございます。

先ほど、今、回答の中で出てきました研究施設として、国の機関という言葉が出てきました。具体的にどういうものでしょうか。あるいは、国の機関以外にも参加される機関があるのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 今のところは、幾つか声かけをさせていただいてるところなんですけれども、取りあえず、当初から参画していただく国の機関としましては、農林水産省の農林水産政策研究所、これは、農林業の関係の新しい施策を研究とか、そういった立案をするような機関でございますけれども、国の機関としては、こういったところにお声かけをしているといったところでございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 国の機関以外にはありますか。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 国の機関以外では、島根県にございます中山間の研究する機関、そういったところにも声かけをさせていただいております。こちらは、中山間の地域振興とか、そういった問題を研究されるような機関でございますけれども、日野町も、既に共同研究という形でいろいろ関わりを持たせていただいているといったところでございます。それから、中海テレビのほうが立ち上げられたトライセクター・ラボというような研究機関もございます。こちらのほうとも一緒にやらせていただければということで、現在調整中でございます。これは、公共・民間・市民が協調、共創して、課題解決に向けた施策を立案するというようなことを理念に持っておられる機関でございます。それから、カフェの運営であるとか、農福連携というような形でノームの糸車さん、こちらのほうにも関わっていただけないかということでお声かけをしているというようなところでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 分かりました。

それで、先ほども出てきた名称で、隼L a b.、これは八頭町のものでございますけれども、成功例としてよく話題になるところなんですけれども、これは、町長さん、どこかの機会をここで視察して、大変勉強になったというような話を聞いたことがあります。そこでちょっと聞いてみたいんですけども、この隼L a b. を視察されて、住民と一緒にした研究、あるいは実践という観点からは、どのような点が参考になったとお考えでしょうか、お聞かせください。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 過去、私、議場でも申しました、隼L a b.、視察っていうか、そういう堅苦しいのんじゃないくて、立ち寄ってみた。でも、非常にすばらしい施設だなんて思いました。旧隼小学校、隼っていうところは、どういうんですか、子供さんの水泳の競技なんか、すごい強かったところですよ。そういうので、プールも活用しておられるのかなと思ったら、ちょっとプールのほうは分かりませんでしたけれども、1階に子供さん、小さな子供さんを連れてきて、遊ばせるコーナーがあったり、さらには、食事ができるコーナー、それが校庭と園庭っていうか、校庭とも、どういうんですか、バリアフリーっていうふうな言い方がいいのかもしれませんが、すごくなじんでいる。さらには、その横に、育休中のお母さんが子供を連れてきて、店番をすることができる、何かそういうような工夫もしてあって、非常にいいなと思いました。さらには、地元の方ばかりじゃなくて、鳥取市内から休みの日に、日中は子供さんを連れて来られる親御さんがおられる。何か、すごくにぎやかかっていうか、いろんな機能を果たしている。さらには、サテライトオフィスも増棟をされているような感じでした。それが、一朝一夕にできたものでは私はないと思います。いろいろ、地域でどういうふうに活用していこうか、そのためには、地域でどういう課題があって、それを解決していくためにはどういった取組が必要なのか。さらに、それを地域っていうか、みんなで磨いていく、そういうようないろんな関わり合いの中で今の形ができていっているのではないかなと思います。そういったことが非常に参考になったということでございます。黒坂小学校で始めるリノベーションL a bについても、同じような、どういうんですか、成果が出るっていうことを期待しているところでございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ありがとうございます。この隼地区というのは、もともとは、隼駅にオートバイの隼のファンたちが集まる場所からにぎわいは始まったというふうに理解しております。いろんな、そういう外部の人が来られることによって、いろんなつながりができて、それが今のようにつながっていると思うので、これまでのエネルギーの蓄積がかなりあったからこそ、こういうすばらしいものができているんだろうなというふうに思っています。

一方、黒坂地区っていうのは、今、町長も御指摘されたとおりに、大変疲弊しておりまして、なかなかそういう、まだエネルギーの蓄積というものはない状況なので、これから始めていかなかちゃいけないというふうに思っているわけです。

ここでちょっと提案なんですけれども、今、日野町全体、黒坂だけじゃなくて根雨の方も入っているんですけれども、若い方たちが、黒坂小学校、教室などを使って、こんなことをやってみた

いという案を出しておられます。これは、一部の人たちだけじゃなくて、日野町、黒坂だけじゃなくて、日野町全体から、自分は学校を使って、跡地を使ってこんなことをやってみただけで、こんな面白いことを考えてるんだけどっていうのを募るような集まりをしてもらえないかなと、これは提案なんです、それによってもいろんな形ができ、あるいは、あるグループとあるグループがつながったり、そして、今ラボとして町がやっておられる先生方、研究者の方の意見も聞いたりできるような形にしていくための集まりをしてみたらどうかと思うんですが、町長はどうお考えでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 地域でいろんな、地域の住民の方を中心にしたいろんな試み、思いを持った団体とかグループがあって、そういった方々と一緒になる集いを開催したらどうかっていうようなお話だったと思います。本問のほうに沿って申しますと、また、担当課長のほうが申しました日野町リノベーションL a b、ここでいろんな、農水省の研究施設であったり、いろんなところで地域の課題、そういったものの、どういうんですか、検討を始める、さらに集積を始めるっていうような中で、ぜひそういった地域の住民の方にも参加していただく。いろんな、どういうんですか、私、農水省の研究員さんともお会いしました。みんなドクターを持っておられる、いろんな分野のドクターを持っておられる非常に優秀な方だと思っておりますし、また、中海のトライセクター・ラボであったり、いろんなところともまた参加していただくっていうことで、非常にいい刺激になると思いますので、ぜひそういう場に参加していただけるようお願いしたいなと思います。そういうお声がけを積極的にしてまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ぜひやっていただきたいと思います。これは役場主催でもよろしいですし、住民との共催でもよろしいんですが、L a b主催というのが一番いいのかなと思ったりするんですけどね。リノベーションL a bさんの主催のほうがいいのかなと思ったりもしますが、どういう形であれ、ぜひやっていただきたいと思います。

それから、5つ目になります。学校がなくなるわけですけども、今までの学校を核とした教育というのがどうなるのかなという質問をしたわけです。回答を見ますと、大人が集まるっていう感じの回答しかなかったもので、ちょっと紹介したいことが実はあります。

これも八頭町なんですけれども、八頭町に安部小学校というのがありまして、これは平成29年だったでしょうか、閉校になりました。ところが、その閉校になった年にその小学校を卒業した人、今は岡山大学大学生で、ちょっと私はある地域づくりのオンライン会議というか、情報交

換会みたいなどころでお知り合いになった方で、内田さんという大学生なんです、その人が中心になって、自分たちが学んできた小学校、なくなってしまうのは嫌だということで、毎月のように草取りに、掃除に行ったり、あるいはその後、鬼ごっこして遊んだりという、本当にその小学校が好きで活動されていた方が高校生になって、安部小プロジェクトというのを幼なじみたちと立ち上げられて、月に1回ずつ掃除に行く、そして、夏には夏祭りをするということで、これが大変評判を呼んだようでして、例えば、ここにちょっと書き物があるんですけども、学校が閉校になっても思いは磨れない。6年間通った学校、地域に支えられた学校、そんな思い出ある学びやで私たちはさらに学びを探求していきます。大好きな安部で、いろんなことを挑戦していきます。その夏祭りを地域の方たちと一緒にされたそうなんです、地域の方の声というものも載っております、若者の力はすごい。閉校という寂しい出来事を逆転した取組で、私たちも頑張りたい。これまでやっていた区民運動会がなくなったけれども、代わりにこんなことをやってくれて、私たちも盛り上げていきたいと。それから、集落全体で協力していて、よい雰囲気だった。役場の協力体制が非常に良かったように感じるといったような感想があったそうです。今もこの方は同じように続けておられます。

そこでもう一つ。これは我が黒坂小学校のことなんですけれども、2月の終わり頃に黒坂小学校ファイナルステージっていうのが小学校で行われまして、見に行かれた方も多かったと思います。これは、1年生から6年生まで、それぞれのテーマに沿って自分たちが調査したことを発表する会でした。例えば、黒坂の町を探検したとか、それぞれの、1年生ごとの、1年ごとの成長がとてもよく分かって、とてもいい発表会でした。そこで私が一番印象に残っておりますのは、6年生は黒坂小学校105周年の歴史という研究をされておりました。明治、最初の頃の授業というのは光徳寺のお寺でやったんだっていうようなことも、私が知らなかったことを教えてくれたりもしました。最後に、その6年生がそれぞれ研究したことの感想を述べていました。一番私自身が印象に残ったこととかというのは、これは男子の感想でした。黒坂小学校のことをいろいろ調べているうちに、僕はこの学校にもっと長くいたいと思うようになりました。この気持ちは本当に大事にしなきゃいけないと。そのために大人ができることってあるはずなので、これこそが、学校がなくなっても、子供たちを核にした教育、あるいは地域づくりというのに結びつくんじゃないかというふうに思ったんですが、町長の御感想なりを伺います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 非常に盛りだくさんのお話を伺いました。私も、旧八東町の安部小学校、ここは中にまで入ったことはないんですけど、まだ開校されてるときに、国道29号線沿い、横

のほうには造園会社の社屋がある、非常に雰囲気の良いところでした。その安部小学校が閉校になるに、前後合わせて、その卒業生の方が地域とのその小学校との関わり、夏祭りであったり、草取りであったり、そういったことをされてる。黒坂小学校も今、コロナの中で、あそこで地域活動なかなかできないんですけれども、いわゆる黒坂納涼祭りであったり、いろいろなイベントに使っていただいている。恐らくコロナ明ければ、また同じようなこともあるのではないかなと思っております。

お答えする部分が、ちょっとどういうお答えをしていいのか。黒坂小学校、いろんな地域の拠点として、また、地域の人が世代を超えて集まれる、そして会話できる。さらに、その地域の人ばかりじゃなくて、地域外からもおいでいただける。そういった施設にするのが理想形かなというふうに思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 答えにくかったとは思いますが、私が言いたいのは、こういう子供たちがいる。この子供たちが、何か小学校、6年間学んだ小学校で何かやりたい、やってみたい、これからも続けてできることがないかっていうふうに考えたときに、大人もやっぱりそれをサポートするということをしてほしいなというふうに思うんです。先ほど提案しました、学校、教室で自分はこんな面白いことやってみたいという意見を出し合う場所に、彼ら、彼女たちの、小学生、中学生、子供たちも来てくれればいいなと実は思ってるんです。もしそれが許されるのであれば、彼らは彼らなりに何かを考えてくるはずです。そこでのサポートをお願いできると思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 思い出しました。昨年、黒坂小学校の閉校を控えてってということで、夏に学校施設を見学するっていうような、たしか催しもありました。私の同級生もお孫さんも連れて校舎の見学をさせていただきました。そういった、懐かしいっていうか、自分の子供、本人であったり、子供さんが学んだ施設、その面影がやっぱり残ってるっていうことも恐らくそういう郷愁をそそるもんだと思います。そういったことにも配慮しないといけないなっていうような御意見であったかなと感じております。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ぜひ考えていただきたいと思います。特に黒坂の場合は公民館、普通いつでもふらりと行って過ごせる場所ではあるんですが、土曜も日曜も休館日なんですね。だから、例えば若いお父さんお母さんがちょこっと近くで絵本でも読もうかみたいなことが、土

日はできないんですよね。その意味でも、黒坂小学校がそういうところを補完する場所としても使えるんじゃないかと思いますし、また、校庭のことは今日触れませんが、例えばちょっと一部だけでも芝生化して遊具を置くなりして、憩いの場としても、大人の方も含めて、できるようなことも、今後考えていただければなと思っております。

最後の質問です。サテライトオフィスや個人事務所として利用すべきではないかという質問をしましたところが、先ほどの答弁の中で、企業や団体と話をして助言をいただいているところだというふうにありました。ということは、既に呼びかけはなされていると、具体的に なされているというふうに理解してよろしいのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 実際に呼びかけをしてるというよりも、そういったところをコーディネートしておられるような企業といろいろ話をさせていただく中で、そういったお声というか、お知恵をいただいているというような段階でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） その話された中で、黒坂に入っていく理由とかメリットがつかれるかというところがポイントになるというふうな答弁でした。もう少し具体的に言っていただくと、これはどういうことでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 具体的に言いますと、取りあえず研究機関で何か研究をという話をさせていただいてるところなんですけれども、取りあえず黒坂小学校、全県下、全国的にも学校の跡地というのをすごくどこの自治体も苦勞しておられるところでありまして、そこで浮かび上がっていくようなものは少ないのではないかなというふうなことです。ですんで、研究されるのであれば、先ほど来申しております農福連携であるとか、そういった開発であるとか、研究が、そういった産業とか、そういったものにつながっていくようなものなら、興味を持たれる企業もあるんじゃないかというようなことが話の中で出てまいったというような段階でございます。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） 地元、もう一つ大きなことは住民の皆さんに参加していただくということが大きいんですけれども、もう一つは、なかなか先ほどもエネルギーが少ないという話をしましたけれども、エネルギーを蓄えていくためにはやはり外部、外からも、町外、県外からも入ってきていただいて、いろんなことをやっていただくということが将来に結びついていくと思いますので、これはサテライトオフィスであるとか、ワーケーションであるとかみたいなこ

とも、時間をかけてになるかと思えますけれども、研究して、実現に向けていただきたいと思います。

最後にその質問の回答をいただいて、終わりにします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） おっしゃるとおりだと思います。黒坂出身の方が私のほうに提案をしていただいたんですけども、地域の人口は緩やかになっていうか、着実に高齢化していく。そういった中で、いろんな発想とかいろんな経済的発展も含めて考えるならば、外からいろんな力とかエネルギーを、議員さんおっしゃった、そういうのを寄せ集めていく、または、集まってくる、そういった場所にしないといけないでしょうねっていうような御提言もいただいております。その辺は踏まえてまいりたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員。

○議員（2番 梅林 敏彦君） ありがとうございます。以上で終わります。

○議長（小谷 博徳君） 2番、梅林敏彦議員の一般質問が終わりました。

○議長（小谷 博徳君） 続いて、8番、佐々木求議員の一般質問を許します。

8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） それでは、通告に基づきまして、私は介護保険の問題……。

○議長（小谷 博徳君） もうちょっとマイクのほうに寄った方がいいじゃないか。

○議員（8番 佐々木 求君） ちょっと待ってください。

介護保険の問題について、町長に質問をいたします。御存じのように、今、町民は政府の異次元の金融緩和、そういう政策の下で、アベノミクスで激しい物価高騰や、また重税、あるいは国保や介護保険の重たい負担にあえいでいるのが実態だと思います。国のこうした規制の防波堤としての地方自治体の役割が今求められているのではないかと私は考えております。

実は私たちもこの間、アンケートを取っておりまして、そこにはっきりと示されているのが、町は令和6年から8年の9期の介護保険制度を作成するために、現在アンケートを取っておりますが、これはとてもいいことだと思いますが、本当にこうした、私たちのアンケートの中にもはっきりと示されております。現在の保険料は1から9ランクの平均の5ランクで年間、真ん中ですが、8万2,300円であります。8期のこの計画作成の際には、月額620円程度の年間7,500円の引下げが行われましたが、これが3年間の保険料となっております。その際、4,000万の基金は、言わば保険料を多く取り過ぎてできたものなので、基金の取崩しで引下げを

私は求めてまいりました。全国で保険料が大幅に引き上げられている中で行われましたが、本町はそれまでの保険料は、急激な介護の利用も増えたときでもあって、それに対応したものにせざるを得ない状況で、大変高いものでありました。その後少し安定した流れになり、8期では引下げを行い、現在は約7,000万円の基金があります。

つまり、令和6年から8年の9期の引下げも、この基金を活用して、できる状況にあります。前8期のときには4,000万が今、7,000万でありますから、さらに大きな引下げができるのではないかと考えておりますが、どの程度の引下げを考えておられるのか伺います。

また、いきいき体操、百歳体操をはじめ、地域での様々な健康への取組など、あるいはまた病院や役場、民間業者の担当者など、幅広い取組が展開されておりますが、今後のこうした展開、健康への展開はどのように考えておられるか、お伺いをいたします。

さらに、要介護給付外しで、要介護1、2の方を対象から外す問題、また、サービス利用料が2割、3割負担の拡大にはどのような対応を考えておられるのか、再度お尋ねをいたします。

また、こうした動きの中で、ケアプラン作成の有料化は検討の段階で見送られました。政府において見送られました。これにはいろいろ教訓があるように私は思っておりますが、町長はどのように受け止められているのか、まずお尋ねをいたします。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 8番、佐々木議員の御質問にお答えします。通告書に基づいてお答えいたします。

まず初めに、介護給付費準備基金7,000万円の基金を取り崩して、介護保険料を再度引き下げる考えはあるか、あるとすれば、どの程度を具体的に考えているかとの御質問でございます。現在、健康寿命の延伸のため、百歳体操やフレイルチェックなど取組を強化しており、介護給付費も減少傾向でございます。住民の皆様はその効果を実感していただくためにも、介護保険料の引下げについては可能な限り実施したいと思っております。介護給付費準備基金、約7,000万円につきましては、そのまま推移すると仮定すれば、ある程度取り崩す予定で保険料を設定したいと考えております。

次に、百歳体操をはじめとした様々な地域での健康への取組、効果をどのように評価しているか、地域づくりの上で、今後の展開はどのように考えているかとの御質問でございます。平成28年度に開始した百歳体操の参加者は年々増加しており、町内39か所で65歳以上の方、1,430人のうち28.4%である406の方が毎週1回から2回、地域の集会所などに集まって体操されております。効果につきましては、定期的に集まって体操や会話をすることで身体機

能の維持向上や鬱予防、認知症予防にもなり、健康寿命の延伸につながることから、要介護認定率、介護保険給付費や介護保険料にも影響していくと考えております。今後は、健康福祉センターと地域包括支援センターで連携し、フレイルチェック、健康ゲームなど新たなものを提供し、町民の皆様に長く楽しんでいけるよう様々な機関と連携し、健康寿命の延伸に取り組んでいきたいと考えております。

次に、介護サービス利用料の2割、3割負担の対象拡大、要介護1、2の給付外しにどのように対応していくのかとの質問でございます。まず、利用者負担割合の対象拡大についてでございます。確かに負担能力に応じた負担という考え方もあると思いますが、介護サービスは医療サービスとは異なり、利用が長期にわたることから、私としましては安易な負担増については反対でございます。要介護1、2の方の給付の見直しにつきましても、重度化防止の取組にこそ専門的なスキルを持った専門職の関わりが不可欠であると認識しております。これにつきましても、私としましては反対の立場ですので、機会あるごとに、安易な制度改正とならないよう、国や県に訴えていきたいと思っております。

最後に、ケアプラン作成料の有料化が見送られた教訓は何だと考えられますかとの御質問でございます。介護支援専門員、いわゆるケアマネジャーは、本来業務であるケアマネジメントに付随して各種の生活支援等を行っているほか、公正、中立性が重視されている点などを踏まえますと、利用者負担を求めている他の介護保険サービスとは異なるため、現行給付を維持すべきであると考えます。ただし、ケアマネジャーに期待される役割とその役割を果たすための処遇改善や事務負担軽減の環境整備の議論は大いに必要な議論だと認識しております。このことを教訓にし、前向きな議論が行われるよう、国に対して訴えていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 今進んでいる医療や介護保険の見直しの中では、本当にマスコミも大変な大改正だという内容で報じております。それは、例えば急性期の病院で6,600床を減らすとか、あるいは患者の窓口負担を2割に引き上げていくとか、そういう内容を含めて、介護保険についてもたくさん点でそういうことが行われようとしております。こうした中で、住民負担の私たちのアンケートにも、もう大変だと、何とかできないかという声が圧倒的に寄せられておるのが、この介護保険給付費です。そこで調べてみますと、御存じのように、今、8期で、5ランクで年間の負担が8万2,300円、国の平均が、これで7万2,168円、そして、この近在でいいますと、日南、6万8,400円が一番安いです、大体その程度のもとなっております。これは住民税非課税の所帯でありますから、かつ年金収入などで8万円を超えるも

のということになっておりますから、これで見ますと、大体7%ぐらいの負担になってくるわけです。114万、5万の人がそれだけの負担をするということは、これはもう本当に大きな負担と言わざるを得ません。生活にも大いに影響があるという内容となっておりますが、私が前回質問したときに、町長は非常に前向きな答弁をいただきました。幾ら基金があつたら安心ですかという問いに、町長が答えられた内容、覚えておられますか。覚えておられませんか。実は基金については、私が言いますが、1,000万から2,000万あれば大丈夫ではないかと考えるということを言われました。私はその言葉をはっきりと覚えているんですが、1,000万、2,000万あればということになると、今7,000万あるものは5,000万を使って、今の時点です、今の時点で7,000万あるんだから、今の時点で5,000万を使うように、3年間ですが、計画をすることができるんじゃないかと単純に考えますが、町長、その辺はどういう認識持っておられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 本問のほうでも申しましたけども、基金のほう、これをうまく使って、介護保険料の抑制っていう、そういう方向に持っていきたいっていうことは述べさせていただきました。ただ、介護保険料っていう、介護保険料の将来3年間の算定にあっても、いろんな要素が入るわけですね。給付費であつたり、人口であつたり、介護認定率であつたり、いろんな要素がありますので、そういう要素をいろいろできるだけ正確な推計をしていくっていうことの中で、基金をどれだけ使うかっていうことが決まってくると思いますので、その辺は、どういうんですか、いつもなんですけども、しっかり算定してまいりたい、そういうふうに考えております。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 今、私は、4,000万使うとか、5,000万使うとか、はっきりした数字を述べてほしいというわけじゃありません。やっぱり今、前回のときからの流れから見ると、それだけの可能性はあるということについては納得していただけますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 重ねての御質問、恐らく本問のこの辺だと思いますけれども、介護給付費準備基金、約7,000万につきましては、そのまま推移すると仮定すれば、ある程度取り崩す予定で保険料を設定したいと考えております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 分かりました。やっぱり、これは前回のときにも申し上げたように、基本的に保険料の取り過ぎたものを積み立てているわけですから、やっぱりこれはちゃんと

被保険者に返すべき内容のものだと私は思いますが、その点については納得していただけますか。

(発言する者あり)

○議長（小谷 博徳君） いや、保険料は集めておるので、余ったら返すべきで、それは納得できるかいう。

埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 余ったもの、基金に積み上げたもの、これについては保険料を安くするっていう方向で活用するっていうのがいいと考えております。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） それじゃあ、まあ一応、この引下げに活用すべきだという点を見て、私もそのとおりにしていただけるものと思います。

なぜ私がこういうのを複数回やったかという、今の流れは非常に、とにかく国民にこういう負担を押しつける流れが医療、介護保険で強まっている。したがって、あえてこういうことをこの今期の最後の仕事としてやっぱり私は聞く責任があるじゃないかと思って尋ねたわけですが、ぜひ、やっぱりそういうことで頑張ってもらいたいと思います。

次に、地域での健康への取組です。実際の取組というのは、機関としては非常に病院の介護への支援や、あるいは民間施設の頑張りなどいろいろありますが、当然、職員の担当者の皆さんの奮闘もあります。これは、意外と私はもう大きなものになってきていると思っております、私自身も。その結果、こういう介護給付費が大きく削減されてきた内容というのは、大変な努力だと思っております。しかし、これを問題はどうか、徹底していかということ、やはりきちんと9期の計画の中では持たないといけないと思うんですが、その点についてはどのように考えておられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 百歳体操の普及、活用にあつては、本当に職員一丸となつて、さらには地域包括支援センター関係者の方々、ドクター、医療事業者、さらには介護施設の職員さんなど、いろいろな方が関わって、それから地域の方も、お世話をされる方、関わられて広げることができております。さらに、百歳体操ばかりじゃなくって、フレイルチェック、そういったものも今、組み合わせ、さらにはeスポーツですね、そういったことも引き続き展開していく。そういったことを9期の中でも引き続きさせていただきたいと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） この問題も本当に効果の出た、せつかく効果の出た取組

だと思えますし、大変な努力があつてのことだと私自身は思っております。したがって、これは曖昧にせず、もちろん体操もそうなのですが、健康講座とかいろんな取組を広げていく、そのことによって健康寿命を延ばしていただくという努力を徹底的にやってもらいたいと思えます。

次にですが、介護サービスの問題ではこの負担を、2割や3割の負担というのを、対象を拡大しようとしているのが今の国のやり方であります。したがって、利用者の皆さんは、何でこう増えたのかということが起きかねない。こういう方たち、例えば要介護1、2の給付外しについて、私は前回尋ねました。1も2も1億1,000万程度のものが給付されているという内容から見ると、ここをどうすくうか、どうこうした人たちをすくい上げるかという問題が非常に大きな課題となつてまいりました。9期の中へ向けて、そういう検討はどのように行われているか、最後にお聞かせ、最後じゃないですが、聞かせてください。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 介護保険料の負担増、それから要介護1、2の保険外し、そういったことについて、いろいろ私も情報を整理していきますと、やはり厚労省と財務省とのいろいろな駆け引き、2025の問題あり、2040の問題ありとか、いろんなことが関わっているっていうようなことでございます。本問のほうで申し上げましたように、負担増っていうことになると、本当に介護のほうはスタートしたら、途中で、医療と違って、ここで終わりっていうか、ここまでで完治しましたよっていう、なかなかそういうのがない中では、これは非常に問題であるかと思えますし、要介護1、2の保険外しっていうのも、これもいろんなものを読むと、ああ、なるほど、そういう事情もあるのかって、要は、まだ要介護1、2の介護保険料から外して、地域事業っていうか、そういうのに持っていく。それもいいんだけど、まだその受入れ皿が整備されてない、そういった状況の中で、財務の主導で早くせいで、それはちょっと違うんじゃないっていうことで、検討を先送りっていうか、されてるっていうような状況でございます。ということを知ったわけでございます。第9期の中でその辺の検討がされてるかっていうことでございますけれども、ちょっと詳細まだ、第9期の検討まだ、今しつつある状況ですので、もし担当課長のほうから補足でちょっと言える範囲であれば補足したいと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 住田健康福祉課長。

○健康福祉課長（住田 秀樹君） 若干、じゃあ補足をさせていただきます。まず、要介護1、2の方の保険給付の在り方なんですけども、これは恐らく9期の中では実施されないものと見込んでおります。恐らく9期の期間中に、市町村の意向や利用者の影響等を踏まえながらまた検討されていくことになろうかと思えます。ただ、市町村の意向調査をされるということですので、う

ちとしても反対の立場で意見はさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） そうです。私もそういう立場で、国や上に対してしっかりと物を言う必要があると思います。ですが、この問題は実はよくよく生活の中で考えてみると、若い人たちが親の面倒を見るといいますか、家を見るために帰ってくる。そういう方たちが職場に出ていくときに非常に、見にやいけんということになると、障害にもなりかねない深刻な問題だと私は思うんです。私もそういう方の意見を一、二聞きましたが、やっぱり若い人せっかく戻ってきてもよとしようとするのに、仕事ができないというようなことも起きかねない。ぜひ、そういう検討の輪も広げていただいて、意見も聞いていただいて、どうしたらいいのかというところについては決して切り捨てることのないように。ただ、そうはいつでも、先ほど来、町長も言われたように、担当課長も言われましたが、1、2のレベルの方の負担を全て肩代わりするということになると、小さな町で2億2,000万の金が果たして負担できるかという問題になりますので、これは無理と言わざるを得んと思いますが、しかし、それに代わる策を考えるなどしないと、このままでは大変なことになる。単に高齢者だけの問題ではなくて、そこを支える若い人たちの仕事にも影響してくると思うんですが、そういう認識はございますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 要介護1、2の保険外しっていうのはあくまで造語で、正しくは総合事業への移行の検討を進めているっていう段階だっていうふうに承知しております。これまで国が支援した部分を市町村が運営する地域支援事業へ移すという内容。ただ、その中にあるのは地域によって財政状況にも格差があり、地域による介護サービスの格差拡大も不安視されてる、まさにそうだと思いますし、また、先ほども紹介しましたが、事業者さんも反対されてるような状況があるそうなんですよね。理想形はそうかもしれないけど、まだ受皿ができてないのに、そんなことはちょっと乱暴過ぎるんじゃないかっていうような議論もあるっていうことを承知しております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） まさに言われるとおりになんです。したがって、本町の場合などでは、町の計画の中に取り込んで、そうした人たちを単純に救済できるというものでないということはもうはっきりしております。したがって、国に対する要望というのはしっかりとやっていかなきゃいけません。ここを崩れたら、本当に若い世代がますます大変になってくる。そのことを肝に銘じて、奮闘してさせていただきたいと思っております。

最後になると思いますが、ケアプラン作成のこの有料化は政府が提案して検討を、これだけ、ケアプランの有料化だけの問題ではありませんが、様々なことを提案しておりますが、そうした中でも、提案して間もなしに、実は撤回をしました。御存じのとおりです。これはどういう具合に受け止めておられますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 端的に言えば、地域、国民の声をちゃんと聞いた結果、いわゆる社会保障審議会介護保険部会さんが結論を、どういうんですか、すぐには出さずに、さらに検討を加えますっていう状況になってるっていうふうに承知しております。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） これは、ほかの課題もそうなんですが、出されたときにすぐに、テーブルの上に出された時点で、全国から抗議が湧きました。これは、このケアマネジャーによるケアプラン作成は、本人の負担のないものをいきなり負担をかけていくというやり方は、何でもかんでも住民サイドに負担をかけるというやり方でありまして、当然、全国からの抗議の声起きて当たり前のことだと思います。その中に関しては、ほかの何点かもありましたが、例えば病院でいえば相部屋の部屋代を取るとか、いろんなことがありました。もう本当にたくさんのごことを今回改正しようとしておりますが、私は、いずれにしても大事なことは、住民の医療や介護、こうしたものを今、どう守っていくか、そのために全力を尽くしていくことが大事だと思いますが、言わば国の悪政に対する防波堤の役割だと思いますけれども、そうしたときに、町としてはやっぱりそのこのところの動きをしっかりと早くつかむ必要があると思うんです。最近はまだ本当に矢継ぎ早に、しかも新聞では小さな記事で出てきたりしておりまして、我々でも見落とすことがあるような状態です。これは本当に、私にすると残念でかなわないわけではありますが、このまま放置すると、こうしたケアプランの有料化も、今回は先送りされましたが、本当に実施されるようになったら、ますます抑制が利いてしまうようになって、利用が減ってしまう、利用しにくくなる、そういうことが起きかねない事態だと思うんです。私は、一番お願いしたいのは、こうした国の施策に対して目を光らせておいて、担当者の方も一生懸命頑張っておられますが、すぐに取り上げて抗議をしていくということをやったりやらないといけない。そういう点では、この間、国に、あるいは国会議員などに対して、こういうことをやったら困るんだよというような要望は具体的にされたことはありますか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 県の町村会を通じてさせていただいてる部分が多数あろうかと思います。

コロナ禍ですので、町村会の役員もしくは部会長が霞が関とか県庁に出向いて要望をさせていただいてるっていうふうに承知しております。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） 最後になりますが、町民の健康、暮らしを守るのは、トップは何といっても町長がやっていただかなければなりません。そのためには、こういうことについてしっかりと目を見張っていくことが大事だと思いますが、私はそうした中でも、報道があったときに即座に動く構えがやっぱり大事だと思っております。本当にこの介護保険だけで見ましても、日野郡でもばらつきがありますし、西部の箕蚊屋広域連合を含めて、随分と差があるんです、実際は。このこと自体が、隣の町と差があること自体が今、国政上でも問題になってきてる。場所によっては非常に負担が大きいところが出てき始めた。だから、油断をしてはいけない課題で、常にそういう目配りをしながらぜひ奮闘していただきたいと思いますが、私ももう今期はこれで最後の質問ということになりますけれども、度々、町長にそういうお願いをしてきたわけですが、ぜひ、ずっと避けられない課題でありますからお願いしたいと思うんですが、最後に思いがあれば、一言。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） いろんな課題に対しアンテナを高くしなさいっていうことと、住民の方の御意見をしっかり聞きなさいっていうことに収れんされるのではないかなと思います。ただ、今上げられました介護保険の関係につきましては、いわゆる国の法律で規定される分ですので、国会でしっかり議論していただくっていうことも必要だと考えております。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員。

○議員（8番 佐々木 求君） これで終わりますが、私は、国と地方の関係というのは対等だと思っております。国の動きに対して地方が意見を上げる、当たり前なことだと思っております。ですので、決してひるむことなく、こういう問題については声を上げていただきますよう、最後をお願いを申し上げて、終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（小谷 博徳君） 8番、佐々木求議員の一般質問が終わりました。

○議長（小谷 博徳君） ここで休憩いたします。再開は2時45分。休憩。

午後2時35分休憩

午後2時45分再開

○議長（小谷 博徳君） 再開いたします。

続いて、1番、中山法貴議員の一般質問を許します。

1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） それでは、始めます。百俵の米も、食べばたちまちなくなるが、教育に充てれば明日の一万、百万俵となる。これは米百俵の精神です。まちおこしに最も大事なものは教育だ、人材育成だという言葉です。

それでは、質問をいたします。

まずは、子供たちの学力向上について。令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果では、日野町の小学生の学力は全国平均を上回りました。しかし、中学生の学力は全国平均を下回るものでした。特に国語の成績がよくありませんでした。基礎学力、特に読む力、書く力は、何をするにも基礎となるものです。将来、日野町に貢献する人材になってもらうためにも、子供たちのこの能力を伸ばしていかなくてはなりません。

そこで質問です。

1つ目、子供の基礎学力向上へ、今後どのように取り組むかを伺います。

2つ目、学習の方法ですが、全国で成果を上げているNIEという新聞を使った学習活動があります。これは学校で新聞を読み、新聞記事を切り抜いたり、コメントを書いたり、記事について話し合ったりという学習活動です。子供たちの国語力の向上と社会への関心を持ってもらうために、学校の学習の中にこのNIEを導入する考えはありますか。

次に、小学生議会での答弁のその後についての質問です。今年の1月に、黒坂小学校の児童が議場で町長に質問をする小学生議会が開催されました。児童からの提案や質問の多くに、町長は、検討したいと答弁されました。

そこで質問です。有意義な提案も多く、児童も町民もその後が気になっています。検討となった事項のその後の進捗状況を伺います。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 1番、中山議員さんの御質問にお答えします。

まず初めに、子供の基礎学力向上へ今後どう取り組むかとお尋ねでございます。全国学力・学習状況調査については、小学校6年生と中学校3年生を対象に行われ、小・中学校の教務主任の教諭と教育委員会の主導主事が結果を分析し、課題と今後の取組について広報ひの12月号に掲載しているところでございます。議員御指摘のとおり、今年度の全国学力・学習状況調査において、中学校国語については全国値を大きく下回る結果でございました。領域別平均正答率から

見ると、読むことの領域においては全国値に近い平均正答率でございましたが、話すこと、聞くことの領域においては大きく全国値を下回っておりました。また、問題形式別では、特に記述式の問題に対する正答率が大きく下回る結果でございました。この課題を解決するために、自分の力でまとめの文を書いたり、日頃の授業の振り返りにおいて、視点に応じた振り返りの文を書いたりするなど、指導者が意図的に書くことを取り入れた授業づくりを進めていくとされております。また、授業中に児童生徒がお互いの答えを交換する機会を多く位置づけることで、互いの意見を尊重するとともに、他者が言っていることを聞き取って理解する力を育てていきたいと考えておられるところでございます。

次に、学校の学習の中にNIEを導入する考えはないかとお尋ねでございまして。NIEとはNewspaper in Educationの略称で、学校で新聞を教材として活用する教育活動のこととでございます。新聞を資料やワークシートとして活用したり、新聞作りとか、朝の時間に継続して新聞を読んだりする活動がございまして。これからの社会を生きる子供たちには、一人一人が困難な状況に立ち向かっていく力が求められます。そのために、子供たち一人一人が個性を發揮し、主体的、創造的に生き、未来を切り開くこと、直面する課題を乗り越えて、生涯にわたり学び続けることができる力を育てていく必要がございまして。

今、子供たちに求められている確かな学力とは、知識や技能はもちろんでございまして、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力でございまして。そのような資質や能力を育むために、新聞を学習に活用することは有効な手段の一つであると思っております。新聞を活用することで社会への関心を高めたり、自分事として考えを深めたりすることができるのではないかと。また、新聞を読むことにより読解力も高まるのではないかと。NIEの導入に関しましては、今後、教育委員会と学校とで話し合いながら研究し、その可能性を探ってまいりたいと思っております。

次に、黒坂小学校議会が行われ、非常に興味のある面白い提案をいただき、我々としても刺激を受けたところです。現在の実施状況ということについて、お尋ねにお答えいたします。

まず、日野町のよさを効果的にアピールするためにSNSを利用してはどうかという提案についてでございます。特にYouTubeについてお話しいただいたと思っておりますが、これについては、早速アカウント取得をして実施しております。まずはチャンネルひののコンテンツを掲載しておりますが、徐々に独自の動画も企画しているようでございます。

2点目の撮り鉄のための新たな撮影スポットについてでございます。議場でも申し上げましたとおり、やはり写真を撮る人にとっても、役場がここで撮影してと場所を用意しても、それはあ

まり面白くないのではないかと思います。それなら自由に撮ってもらえばよいのですが、今度は逆に、入ってはいけないところに入って、住民さんに迷惑をかけるかもしれないということもございます。マナーよく、自由にやってもらうのが一番でしょうけど、全国各地で非常識な振る舞いも報道されてるところでございます。これにつきましては、少し慎重に考えていく必要があるかと思えます。

もう一つは、美しい景色をつくってみてはどうかということだったと思えます。100周年で展示させていただいた鉄道写真などを拝見していると、水を張った田んぼであるとか、雪であるとか、自然の風景を生かした写真が多かったように思えます。写真を撮る方は、何げない自然の風景を好まれる方が多いのかなといった感想を持ったところがございます。

ただ、撮り鉄の人に限らず、外から来てもらう人へのもてなしとしてはありかもしれません。これも役場が一方的に町内のどこかへというわけにはいかないと思えますが、外から来たお客さんに喜んでもらえればということで、地元の人がお花を植えたりとか、そういうことがあれば一番いいのではないかと思います。

3点目の撮り鉄の皆さんのマナーについてでございます。警察とも共同で、黒坂で100周年のイベントのときに講習会をしております。また、JR根雨駅などに掲示しておりますが、JR西日本と鳥取県鉄道警察隊、鳥取県黒坂警察署が連名で、列車撮影者の方向けに行われている注意喚起のお知らせがございます。町といたしましても、そのような注意喚起を活用、協力させていただき、SNSや広報媒体、町内施設や飲食店に御協力いただくなどして認知度を高めながら、撮り鉄の皆様がマナーを守って撮影していただけるよう取組を進めてまいりたいと考えております。

次に、撮り鉄の人など、外部から来られた方が快適に過ごせる場所、鉄道の写真の展示、グッズや子供たちが遊べる施設についてでございます。100周年の際に展示しました写真は寄贈していただいて、何らかの形で皆さんに見ていただきたい、このまましまい込むにはもったいないと思っております。何らかの形で展示できるように検討しているところでございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） まず、マスクを取って話させていただきます。

それでは、質問をいたします。

まず、子供の学力向上について、今の答弁では、書くことを取り入れた授業づくりを進めることでした。ですが、本気で学力を向上させようと思えば、もっと具体的に、どのよう

な教材を使って、どのようなスケジュールで、どのように教育していくか、計画を立ててやっていかないと、なかなか効果は出ません。

そこで、学力、特に国語力を上げる具体的な学習方法として、この新聞を使った学習活動、N I Eを持ってきました。提案したいと思います。これは、子供たちが学校で新聞を読みまして、新聞記事を切り抜いたり、コメントを書いたり、記事について話し合ったりという学習活動です。新聞協会の調査では、日常的にこのN I Eを実施している学校の成績は、実施していない学校に比べ、国語、数学ともに高いという結果が出ています。特に、国語の記述式の問題については、全国平均を大きく上回るという結果となっています。具体的な学習方法ですし、全国でやられているので、手本となる実施例もたくさんあります。学習効果のデータも出ております。やらない手はないと思います。

答弁では、今後、教育委員会と学校で話し合いながら研究して、可能性を探ってまいりたいとのことでしたが、このN I Eの資料なんですけど、去年の6月ぐらいに町の教育委員会に、どうですかと記事を渡しております。その後、各学校の校長先生にも資料は回ったという話は聞いております。ですので、既に検討はされているはずですよ。これ、いかがでしょうか。もうこれ、導入するということで進めていきませんか。これ、ちょっと一度教育長に聞きたいと思います。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 中山議員の御質問にお答えいたします。

現在も学校の教育活動の中で、新聞記事を取り上げた活動というのは実施しております。例えば、新聞記事を要約して意見文を書いたりですとか、あとは、社説を読んで見出しを考えたり、それについての感想をまとめたりというような取組はしておりますし、現在の教員の中にもN I Eというのを実際に経験した教員もおります。ただ、これを学校を挙げてということになりますと、学校運営でありますとか教育課程にも関わることでありますので、なかなか教育委員会のほうで、こうなさいというようなことは難しいと思います。

ですので、先ほど町長のほうの答弁にもありましたように、今後、教育委員会と学校校長と話し合いながら、その可能性を探っていくというようなところになろうかと思います。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 去年の6月に資料は渡してございまして、各学校の校長先生にも渡っているはずなんですけど、まだ検討はされてない。

○議長（小谷 博徳君） はずじゃなしに、渡ったのか、渡らんのかいうところをまず聞かないと前に進まん。

○議員（1番 中山 法貴君） まず、渡っているかを確認したいと思います。いかがでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 各学校のほうにも渡っております。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、もう何か月も検討の期間はあったので、検討はされてるはずだと思うんですが、いかがですか。まだ検討はされてないということでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） 最初に教育課程の話をしたときにもありましたけども、やはりこれは新年度の体制になってから、校長を中心に考えていかなければ、なかなか学校を挙げて取り組むというようなことは難しいと思います、それぞれの教員の思いもありますし。ということで、校長とは話はしておりますが、じゃあ、具体的に来年度からやっていこうというようなところまではまだ話は済んでおりません。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 教育課程についてはやはり学校長の権限が強いということで、学校が変わるということでなかなか決められないということだと思うんですが、しかし、新しい義務教育学校は、はばたき科を独自教育とする設定とするというように、町や町教育委員会がまだ学校長が決まってない中でも教育課程を進めることはできると思うんですが、それもなかなか難しいのでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） お答えいたします。

学力向上のために幾つかの取組等は既に考えております。しかし、そういった中にNIE、新聞を取り上げての学習活動というようなところまでは決まっております。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） このNIEですが、費用もかかりません。新聞があればできますので、地域の人に協力していただいて、読み終わった新聞を頂ければ、もうそれが教材になります。地域の人に新聞をもしもらうことができれば、それで地域と学校のまたつながりもできるということです。

ほかには、メリットとしましては、近隣の市町村にはない魅力ある教育を始めることで、成果を出せば、日野町を全国にPRできると。教育が優れているとなれば、移住希望者へも大変大きなアピールになります。また、新聞を使った学習を始めれば、当然新聞社が喜んで取材に来ます。

日野町、教育がすごいぞと、どんどん新聞に書いてくれます。これも日野町の大アピールのチャンスです。

というように、メリットは多くあり、デメリットはない。日野町がやらない理由がない。検討の余地がないと思いますが、町長、どうでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） やる、やらないについては、先ほど本問と教育長が答弁したとおりでございます。

ただ、どういうんですかね、私もN I Eのちょっと、ウィキペディアなんですけれども、今、実際にやってるところが日本では500以上でもう既にされてるとかというような、小・中学校で、小・中・高校。だから、もう先鞭性はなくて、ある程度定着してる中でさらについてというようなことだって思いますし、今、議員さんおっしゃいました、新聞があればっていう、新聞があればこのN I Eになるっていう、新聞はあくまで材料っていう、それをどう使っていくかっていうところのノウハウ、私的に言えば、それをどういうふうに使っていくかっていうのがすごく大切なんじゃないかなと思います。文字が書いてあればいいんですよっていうんだったら、どういうんですか、小説でも、いろんな書評でも、何でもいいのかなと思いますけど、新聞がっていうのは、時事的っていうか、リアルタイムでとか、テーマが絞れてる。我々が小さなときも、小さなときっていうか、高校受験、中学受験のときには、新聞の社説を読んで、ちゃんと用意しなさいよっていうような、そういう時代もあったんですけども、そういう感想を持ちました。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 全国で500以上の学校がやっているということで、それは確かにやっています。ですが、鳥取県ですと、このN I Eの指定校になっているのは4校だけです。ですので、やはりこれ、早めに始めると注目度は高いです。

先ほどのノウハウの件なんですけど、ノウハウがうまくいくか、学校の先生や教育関係者がうまく指導できるかというところがポイント、やはりなると思います。この点につきまして、私、中山は、新聞協会につてがあります。新聞協会のN I Eコーディネーターの関口修司さんを日野町に呼べます。要望があれば、鳥取県でもN I Eの講演を無料でしていただけるというところまで、新聞協会の関係者を通じて既にしてあります。東京と日野町の往復の交通費と宿泊代はかかりますが、講演は無料でして下さるそうです。ノウハウの獲得もばっちりです。町長、いかがでしょうか。導入しませんか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埜田 淳一君） お話、情報としては承りました。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 可能性を探っていく、検討していくということなのですが、やらない理由がないと思うんですが、慎重になられていらっしゃるんですが、前向きな検討ですか、それだけちょっとお聞かせください。じゃあ、教育長に。

○議長（小谷 博徳君） 生田教育長。

○教育長（生田 求君） N I Eを取り入れた教育活動ということですが、子供たちの確かな学力、特に今日言われておりますのは読む力、書く力というようなのをつけるためには、ほかにもいろいろな方策があろうかと思えます。義務教育学校では、まずは授業改革をしていこうというようなのも一つの方策でありますし、教育のD Xを進めていくというようなこともその方策だろうと思えます。そして、町長の答弁にもありましたけども、学習の中で、特に読むこと、書くことに重点を置いた取組をしていこうであるとか、そういうことを新しい義務教育学校でも取り組んでいこうというのが新しい義務教育学校の教育課程の中にも重点的に盛り込まれておりますので、そういうことも含めて、来年度N I Eを取り入れての教育活動というようなところは、今のところ考えておりません。今後、答弁にもありましたが、可能性を探っていくというようなところでございます。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 読み書きを積極的に取り入れていく教育の内容も考えているということですが、これまでもずっと考えていて、やってきて、残念ながら、今回の結果では国語力はよくなかったという結果になってます。これまでのやり方をやっていたはやはりなかなか大きく能力を伸ばすということは難しいんじゃないかと思えます。やはりデータで結果が出ているものを取り入れればいいのではないかと思えます。ぜひ前向きに検討して、研究していただきたいと思えます。

国が興るのも滅びるのも、町が栄えるのも衰えるのも、ことごとく人にある。これも米百俵の長岡に伝わる言葉です。教育と人材育成は最重要事項です。しっかりお願いします。

では、次の質問に行きます。小学生議会のその後についての質問をいたします。

1月に小学生議会が開催されまして、そこで児童から多くのすばらしい提案や質問が出ました。それに対し、町長が、検討したいと答弁を多くされました。では、その検討の結果がどうなったのか、児童も町民も知りたいと思えますので、お聞きします。

これ、なぜこのような質問をするかということ、やはり若者から出てきた声、これにできるだけ

応えていただきたい。それと、検討したいとやはり言ったからには、きちんと検討して、経過を報告していくことを若者に示してほしいとの思いからです。よろしくお願いします。

まず聞きたいのが、この小学生議会では、日野町に鉄道写真を撮りに来る鉄道ファンが多く来ているという背景の中で、この鉄道ファンをもっと日野町に呼び込んで地域活性化につなげてはどうかという考えが児童たちにありまして、そのアイデアが多く提案されました。それに町長が答弁されたのですが、中には消極的な答えも多くて、今回の答弁にもありましたが、鉄道ファン向けの新たな撮影スポットをつくるのはどうか、これには消極的。鏡山城や黒坂小学校屋上など、高いところから撮影できる場所をつくる、これも消極的。顔はめ看板を置くのはどうか、これも消極的。鉄道ファン向けのパンフレットを作ってはというのも消極的。花畑などの美しい景色をつくってはという質問に対しては、これも町としては消極的で、地元の自主性にやってもらいたいというような答えでした。

町長、鉄道ファンを呼び込むのに、実際のところ、あまり乗り気ではないですか。いかがですか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 黒坂小学校の6年生の児童の方から、本当に、どういうんですか、今、地域でどういうことが起こってるかっていうような、そういう視点で鉄道、撮り鉄さんの活動、それをさらに促進するための、促進というか、招くためのいろんな御提案がありました。今、議員さんおっしゃいましたけど、全部消極的じゃないかっていうような……（「全部じゃない」と呼ぶ者あり）それはちょっと違うと思います。

どういんですか、最近もすごく鉄道ファン、撮り鉄の方、たくさん来ておられます。そういう方々が地域の中に入っていただく、経済活動をしていただく、食品を買っていただくとか、いろんな、撮り鉄の方にも本当は鉄道を使って来ていただきたいなというようなことも思ってますし、撮り鉄の方に全然来てほしくないとか、関心がないっていうようなことは全くございません。以上です。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、消極的ではない、積極的だという……（発言する者あり）違いますか。（「あなたが消極的だって言ったから、全部そんなことじゃないよっていう話」と呼ぶ者あり）消極的ではないと。でも、そっち言っときます。積極的ですか。

○議長（小谷 博徳君） 今は質問ですか。

○議員（1番 中山 法貴君） はい。

- 議長（小谷 博徳君） 埴田町長。
- 町長（埴田 淳一君） 全て一様に消極的だっていうのは、ちょっとそれは誤解を招きやすい言葉ではないかなっていうことで……（「言っていない、そんなこと」と呼ぶ者あり）伝えたわけです。いろいろな御提案がございました。検討というのは、総合的にいろいろ情報を集めて考えていかなければいけない、関係者もおられる、そういった面で、いろんな面で検討しますっていうことでございましたんで、その辺は誤解のないようにしていただきたいと思います。
- 議員（1番 中山 法貴君） 積極的かどうか教えてください。
- 議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。
- 議員（1番 中山 法貴君） 積極的かどうかをお答えください。
- 議長（小谷 博徳君） 埴田町長。
- 町長（埴田 淳一君） 議員さんがおっしゃるように、全て消極的だっていうことでは絶対ないっていうことでございます。
- 議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。
- 議員（1番 中山 法貴君） いや、小学生の質問の提案に対して消極的かどうかではなく、鉄道ファンを呼び込むことに積極的か、消極的ではないかを聞いてるんです。鉄道ファンを呼び込むことに町長は積極的ですか。
- 議長（小谷 博徳君） 埴田町長。
- 町長（埴田 淳一君） その部分でしたら、本当、鉄道ファン、撮り鉄の方ですね、先ほども言いましたけども、たくさん来られてる、さらには地域の中に入れていただく、そういったことで町の活性化にもつながると思いますので、いろんな工夫も必要かなと思います。そういう面では積極的、消極的ではない、排他的ではないということでございます。
- 議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。
- 議員（1番 中山 法貴君） それでは、小学生の児童からあった質問のその後を聞きたいと思います。

まず、日野町のPRや情報発信にユーチューブを積極的に活用してはという質問がありました。これに関して、ユーチューブの利用については担当課長から答弁させますと言って、町長は答えになりませんでした。担当課長は、勉強しながら少し考えてみたいと答えになりました。町長も担当課長もユーチューブについてあまり知らないようでしたが、その後、ユーチューブを使ってみて、勉強されて、どうでしょうか。情報発信にユーチューブを積極的に活用するという考えになりましたでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 2月10日からスタートさせていただいてるユーチューブ、「鳥取県日野町情報局」というチャンネルでスタートを切ってるところでございます。スタンスとしては、取りあえず運用してみる、実際の顧客を意識しながら、ここでいう顧客とは観光であるとか移住定住を検討しておられる町外の方っていうことになるかとは思いますが、そういった方に向けての情報発信、そういったことを心がけて運営をしているというようなところでございます。何分まだスタートしたばかりでございます。意識をするっていうことなら誰でもできるわけでございますが、今後、勉強を深めていかないといけないというふうには考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 勉強してってください。

次の質問です。日野町をPRするための話題性のあるイベントは計画されていますかという質問がありました。これに対して、町長は、新年度予算を検討している段階ですとお答えになりました。検討の結果はどうになりましたか。

○議長（小谷 博徳君） 神崎企画政策課長。

○企画政策課長（神崎 猛君） 前の議員さんの質問等にもお答えをいたしました。学校の跡地を使つてのイベント、そういったものに小学生の意見なんかも取り込んでいきたいというような形、そういった形で反映できればというふうに考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 次、行きます。使われなくなった畑などに花などを植えるとして、よい写真が撮れる景色をつくってはという質問がありました。今回の答弁では、地元が自主的にやってほしいというような旨のお答えでした。小学生議会のときでは、できたらいいかなと思う、地域の方にどう協力いただけるかを調べたいというお答えでした。地域の方に協力いただけるか調査をされましたか。調査結果はどうでしたか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 恐らく私、そのときに、御寄贈いただいた写真の中で、早苗というか、田んぼに水が張ってあって、その水面に走ってる「やくも」がきれいに写ってる、そういった自然美っていうんですか、つくられたんじゃなくて、なりわいの中でそういう景色、景観ができてっていうのがすごくインパクトのあるっていうようなこともお伝えしたと思います。そういったふうに見えるのも、これは撮り鉄の方も言われてましたけども、そういった時期に来るだけ

ども、農機具、そういったものが写らないように、撮り鉄の方が撮られるときには横のほうに下がって、撮り終わられてからまた農作業を開始する、そういうようなお話も伺ったところです。地域の方の御協力っていうものも非常に大切だなと思ってます。

そういう面で、産業振興課のほうでちょっと意向とかアンケート、アンケートまではないかもしれませんが、調査したのを補足させます。

○議長（小谷 博徳君） 五百川産業振興課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 補足の答弁をさせていただきます。個別に各農家の皆様ですとか地域の方に、いかがですかというのは、公式にはしておらないところでございますが、鉄道愛好家、いわゆる撮り鉄の方に気持ちよく撮影していただくためには、やはりマナーを守った撮影をしていただく必要があると考えております。

先ほどの答弁の中でもございましたが、JR西日本様や鳥取県鉄道警察隊、そして黒坂警察署さんがされておられるような広報を町としてもさせていただき、そして、町内の施設ですとか飲食店の方に御協力いただくということで、まずはマナーを守って撮影していただくことで、地域の方もそれを見て、せっかく日野町に来てくださる方なので、協力をしなければいけない、なるべく気持ちよく撮影していただきたいというようなよい循環が生まれてくるのではないかと考えております。

実際のところ、役場の中、また、地域の方に少し聞いてみたところなんですけども、鉄道沿線で、毎年春、特定の方がいらっしゃって、地域の方とお話をされたり、よい交流が生まれている例もあるように聞いています。やはりそういったところを町としても、せっかく来てくださる鉄道愛好家の方をつかまえて、できれば町の方と交流していただくようなことが生まれてくればよいなということで、このようなマナーアップについて前向きに取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番議員、質問者と回答者が合っていないの。それは、質問をする前後の言葉の中が残っとるけえじゃないか思う。荒れた畑に、田んぼに花等をやったらどうかというのが質問の趣旨じゃないかな思うんですけど、回答者のほうは、自然とかそういうふうなところで、そこの、もっと単純にここが聞きたいところを言ってもらったらかみ合うじゃないか。

1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 使われなくなった畑などに花などを植えるなどして、よい写真が撮れる景色をつくってはという質問がありました。これに対して、町長は、地域の方にどういった協力をいただけるかを調べたいとおっしゃいました。つまり、畑に花を植えるなどの協力をどう

いただけるかを調べたいとおっしゃいました。調査をされましたか、結果はどうでしたか。

○議長（小谷 博徳君） 減反の田んぼにというのが質問の趣旨なので、そこを教えてください。

五百川産業振興課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の御質問にお答えいたします。

減反の田んぼ、あと、使われていらっしやらない田んぼに花等を植えてみたらどうかというよ
うな調査は、現時点ではしておりません。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 児童に対し、調べたいとおっしゃってますので、調べてください。

お願いします。

次、行きます。撮り鉄、撮り鉄というのは鉄道写真を撮るのが趣味な人たちですが、この撮り
鉄が町に来るのはいいが、マナー問題があると。マナー問題への改善策はどうですかという質問
がありました。これに対して、町長は、JRと警察と連携して考えたいとおっしゃいました。こ
の時点では連携されてなかったんですかね。その後、JRと警察と連携の話をしましたか。どの
ような話になりましたか。

○議長（小谷 博徳君） 埴田町長。

○町長（埴田 淳一君） 結論として、本問のほうでも答えてますけれども、こういうチラシ、チ
ラシっていうか、警告の紙ですか、そういうのは駅のほうに貼らせていただいたりしてますし、
また、特定の駅しかまだ貼ってませんので、それ以外の駅とか、そういったところにも貼る、要
は、関係機関の許諾をもらってそういうのを使わせていただく、飲食店なんかにも置かせていた
だくようなことを今、どういうんですか、検討させてます。

補足があれば、産業振興課長からさせます。

○議長（小谷 博徳君） 五百川産業振興課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 補足の答弁をさせていただきます。

先ほど本問のほうで町長お話しされておられましたが、具体的に、JR西日本様、そして鳥取
県鉄道警察隊、あと、黒坂警察署さんのほうに連絡をさせていただきまして、この注意喚起のお
知らせにつきましての使用許諾、そして、これを使った広報をしていきたいということで了解を
いただいたところでございます。現在のところ、SNSでの周知といたしますか、日野町のSNS
を使った広報、そして、今後は飲食店等にも御協力をいただいて、これを掲示させていただくよ
うなところから、まず、鉄道愛好家の皆様のマナーアップをお願いしていきたいと考えておるこ
ろでございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 次に……。

○議長（小谷 博徳君） 中山議員、答弁にきちっと回答してある部分もあるけえな。そこ外して質問してください。

○議員（1番 中山 法貴君） はい。写真を見せると買物が割引になるような撮り鉄割引をつくってはどうかという質問がありました。これに対する町長の答えは、商工会と相談したいというものでした。商工会との相談の結果はいかがでしたか。

○議長（小谷 博徳君） 課長、いけるか。商工会との話だろ。どげだかいな、質問の。

○議員（1番 中山 法貴君） 商工会との相談の結果。

○議長（小谷 博徳君） だから、商工会の関わるところでちゃんと。（「ちょっと前触れを」と呼ぶ者あり）

埒田町長。前触れも本問でやってください。

○町長（埒田 淳一君） ちょっと今の時点になって前触れっていうのはおかしいんですけども、小学生議会が終わりまして、担当課長とレクをしました。これ、面白いアイデアだったよな、ちょっと検討してみないといけないよね、さらに、そういうようなんを受けて、担当課長、学校のほうにまた出向いて、再度聞き取りをさせていただいたっていうような状況がございます。

そういった中で、今の御質問の部分については産業振興課長のほうから補足答弁させます。

○議長（小谷 博徳君） 五百川産業振興課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 議員の御質問にお答えいたします。

具体的に商工会とのお話合い、これからでございますが、毎年、商工会のほうで昼食のスタンプラリーを取り組んでいただいております。これは特に鉄道愛好家の皆様だけではなく、町内の飲食店を利用される皆様に使っていただいているものでございます。また、このたび、町内の飲食店様に御協力をいただいて、駅メモのイベントの中で飲食店様のほうで割引設定をしていただいて、多くのお客様がいらっしゃった事例も聞いております。この辺りも取りまとめをしながらどのような取組ができるのかにつきましては、今後検討して、ぜひ来ていただけるような取組、ただ、一方で、飲食店様にも負担をおかけする部分でもございますので、その辺りはよく商工会、そして飲食店の皆様の御意見もお伺いしながら検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 商工会と相談したいとお答えになってるので、相談、ぜひしてく

ださい。

次、JR伯備線の電車内に鉄道写真を飾るのはどうかという質問がありました。これに対する町長の答えは、JRと話をしたいでした。JRとの話の結果はいかがでしたか。

○議長（小谷 博徳君） 五百川産業振興課長。

○産業振興課長（五百川和久君） JRさんとの話のところでございますが、このたびのマナーの関係も含めましてやり取りをさせていただいております。どのような可能性があるのかということも含めまして、JRさんとの関係、100周年のイベント等も一緒にさせていただいたところでもありますので、検討……。

○議長（小谷 博徳君） 五百川課長、列車内に写真を掲示する、その部分で、してなかったらしてない、これからするならするいう、そこを教えてください。

○産業振興課長（五百川和久君） 失礼しました。このたび、別件のイベントでJRの車内に広告を出させていただいたところではありますが、写真掲示にいたしましても、実際には費用がかかってきたり、こちらの思いだけでできない部分もございます。現時点では写真掲示のほうは検討は進めておりませんが、可能性はないことはないにしろ、やはり費用がかかるところでございますので……。

○議員（1番 中山 法貴君） 話をしましたか、JRと。

○産業振興課長（五百川和久君） なので、話はしておりません。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 話がしとらんのに経費がかかるなんていうのは、合わんでしょう。（「話をしとらんならしとらんでいいじゃないか」と呼ぶ者あり）

五百川課長。

○産業振興課長（五百川和久君） 経費の件につきましては、別の取組を今年度させていただいた中で、写真ではなく広告掲示ですとか、車内への掲示については費用がかかるというところでの答弁をさせていただいた次第でございます。以上でございます。

○議長（小谷 博徳君） 写真についてはしてないっていうこと。

1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） これも話をしたいと宣言されておりますので、うそにならないように話をさせていただきたいと思います。

続きまして、質問。黒坂小学校跡地の一部を鉄道関連の場所にしてはという質問がありました。これに対する町長の答えは、一意見として検討したいというものでした。検討の結果、検討状況はいかがでしょうか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） 町内の関係者、それから倉敷、それから広島の方から、本当に大きなサイズの撮り鉄さんの写真を頂きました。これ、最初は役場だけで飾ってたんですけども、担当課のほうと相談し、いろんなところに飾られるようにしていきましょうよということを確認させていただいております。ですから、また、どこかで見れると思います。常設ではないです。

○議長（小谷 博徳君） どっかじゃなしに、黒小の跡地で質問があるので、それを。

○町長（埜田 淳一君） 黒坂小学校の跡地っていう特定ではなくてですね。

○議長（小谷 博徳君） 教室含めてです。

○町長（埜田 淳一君） どういうんですか、人が来られる、例えばテラスであったり、黒坂小学校もあるかもしれませんが、いろんなところで有効活用していきましょう、有効活用ってちょっと冷たい言い方ですけども、展示しましょうよっていう話をしております。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） では、黒坂小学校の一部を鉄道関連の場所にするということに関しての検討結果はいかがですか。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） それについては、小学生議会のときにも申しましたが、それは一時的なっていうのはあるかもしれませんが、常設的なものっていうのは考えておりません。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） 検討をしたいとおっしゃっていただきましたので、検討をお願いします。

次の質問。小学校跡地を商店とタイアップして買物ができたり、情報発信をする複合施設にしてはという質問がありました。これに対して町長の答えは、検討したいというものでした。検討結果、検討状況はいかがでしょう。

○議長（小谷 博徳君） 埜田町長。

○町長（埜田 淳一君） リノベーションL a b、そういった中でいろんな地域課題解決のためっていうことで、今検討を始めるっていうことですね、検討中だっていう言い方もいいかもしれませんが。

○議長（小谷 博徳君） 1番、中山法貴議員。

○議員（1番 中山 法貴君） このたびはこういった小学生議会での児童からのたくさんの有意義な意見、アイデアが出ました。こういった若者の思いを聞いて、それを受け止めて、検討した

いとおっしゃったものに関してはしっかりと検討していただいて、経過がどうなったかを報告するというようなことで、若者の声を受け止めるという町政を進めていただきたいと思います。以上です。終わります。

○議長（小谷 博徳君） 1 番、中山法貴議員の一般質問が終わりました。

以上で一般質問を終わります。

○議長（小谷 博徳君） お諮りいたします。本日の会議はこれで散会にいたしたいと思いを

これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（小谷 博徳君） 異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定いたしました。

本日はこれで散会いたします。

会議の再開は、3月22日午前10時といたします。御協力ありがとうございました。

午後3時39分散会
